ひろがる！

多治見市福祉教育読本（2016年改訂版）　中学生用

この本で学ぶ皆さんへ

皆さんは「福祉（ふくし）」という言葉をよく聞くと思います。「福」という字も「祉」という字も、ともに訓読みでは「さいわい」と読みます。「さいわい＝幸い」ですね。つまり福祉にはみんなの幸せという意味があります。

それでは、皆さんは、どんな状態であったら幸せですか。たとえば、周りの人が自分を特別な目で見ているとか、近寄りがたく話しづらいと考えているようだったらどうでしょう。周りの人に話したり、いろいろなことをお願いしたりしにくいですね。どんな状態の自分だったら、幸せを感じられるでしょうか。

どんな場合でも、人と人とが分かり合うためには、あいさつや話をするというコミュニケーションが必要です。そんな時に、お互いの間に壁（バリア）を感じたら、コミュニケーションはとても難しいものになります。

この本は、高齢者や障がいのある人たちにご協力をいただいて、年を取ると体はどのように変化するのか、障がいがあるとどんなときに不便を感じるのか、または、どのように接することがよいのかなどを、皆さんが知り、考え、学習できるように作りました。

福祉は、何も特別なことではありません。皆さんは、友達と話をしてお互いの気持ちが分かり合えたらとてもいい気分になるでしょう。また、困っている友達が自分の協力で救われたら、なんだか自分までうれしくなりませんか。高齢者や体に障がいのある人とも、分けへだてなく、話し合い、理解し合い、協力し合えば、きっとお互いが幸せを感じることができるようになります。そして、福祉（みんなの幸せ）の輪は、もっともっと広がるでしょう。

もくじ

第１部　障がいのある人とのコミュニケーション

障がいとは …… 4

第１章 視覚に障がいのある人と

１．視覚に障がいがあるということ …… 6
２．視覚に障がいのある人とのコミュニケーション～外出しよう～ …… 8
３．交流しよう …… 10

第２章 聴覚に障がいのある人と

１．聴覚に障がいがあるということ …… 14
２．聴覚に障がいのある人とのコミュニケーション …… 16
３．交流しよう …… 18

第３章 肢体に障がいのある人と

１．肢体に障がいがあるということ …… 20
２．肢体に障がいのある人とのコミュニケーション～ひと声かけて手助けしよう～ …… 22

第４章 内部障がいのある人と

内部障がいとは …… 26

第５章 知的に障がいのある人と

知的障がいとは …… 28

第６章 発達障がいのある人と

発達障がいとは …… 30

第７章 障がい者福祉のまとめ

福祉の考え方が生まれた背景 …… 32
学校における福祉 …… 35

第２部　多治見市に住む高齢者・障がいのある人の生活

第１章 高齢者の生活

１．高齢社会とは …… 38
２．認知症とは …… 39
３．高齢者体験をしてみよう …… 40
４．ビリヤードを楽しむ谷口 幸平（たにぐち こうへい）さん …… 42
５．在宅サービスを利用して生活する西川 壽（にしかわ ひさし）さん …… 44
６．特別養護老人ホームで生活する奥村 幸子（おくむら さちこ）さん …… 46
７．施設サービスを利用して生活する高齢者 …… 48

第２章 障がいのある人の生活

１．視覚に障がいのある小林 康史（こばやし やすし）さん …… 50
２．聴覚に障がいのある加藤 昭子（かとう あきこ）さん …… 52
３．肢体に障がいのある伊藤 一浩（いとう かずひろ）さん …… 54
４．家族の支え …… 56
５．地域の中で生きる～施設を利用する人々～ …… 57

第３部　もっと学びたい人は

多治見市内の主な福祉施設マップ …… 60

第１章 福祉の仕事とボランティア　～実践編～

１．福祉の仕事をしている人との出会い …… 61
２．児童センターで働く水野 千鶴子（みずの ちづこ）さん …… 62
３．高齢者介護に関わる岸本 晃直（きしもと あきなお）さん …… 64
４．高齢者の生きがいづくりに関わる伊藤 志乃（いとう しの）さん …… 66
５．笑顔があふれるボランティア活動 …… 67
６．君たちも参加できるボランティア活動 …… 68
７．福祉の分野 …… 69

第２章 福祉の仕事と施設　～資料編～

１．福祉の仕事と資格 …… 70
２．福祉関連施設 …… 73

障がい者マーク一覧表 …… 75

活用のしかた

活 用

この読本は、中学生の皆さんが福祉について学び、福祉体験をしたり、疑問に思ったことを調べたり考えたりするために作られたものです。

それぞれの項目には、学習の **めあて** がありますので、ワークシートを活用し、理解を深めていきましょう。

構 成

第１部　障がいのある人とのコミュニケーション

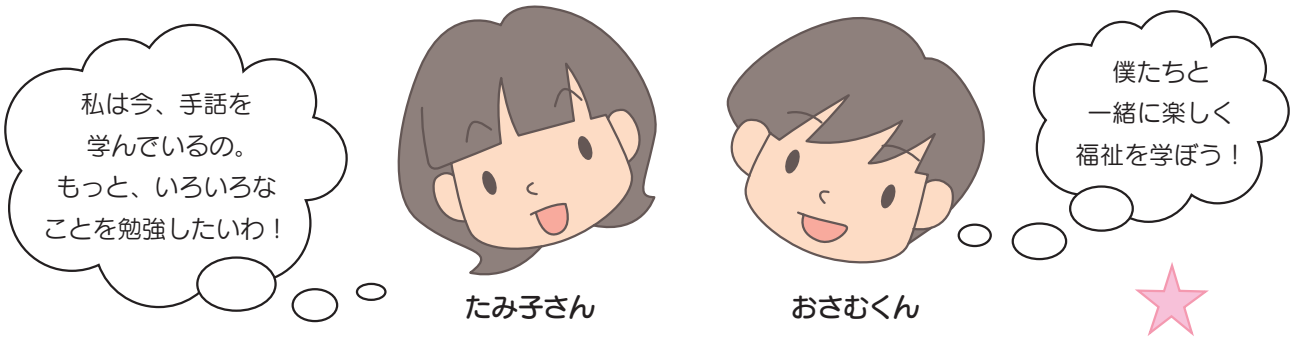
いろいろな障がいについての理解を深め、体験を通してコミュニケーションの方法を学ぶことを目的としています。

第２部　多治見市に住む高齢者・障がいのある人の生活

多治見市に住む高齢者や障がいのある人が、どのような悩みや希望をもって生活しているのかを本人や周りで関わっている人々の話を通して学ぶことを目的としています。

第３部　もっと学びたい人は

福祉に関わる仕事やボランティアなどから、福祉への関心を深め、自分にできることを探したり自ら福祉について学んだりすることを目的としています。



公文書における「障がい者」等のひらがな表記について

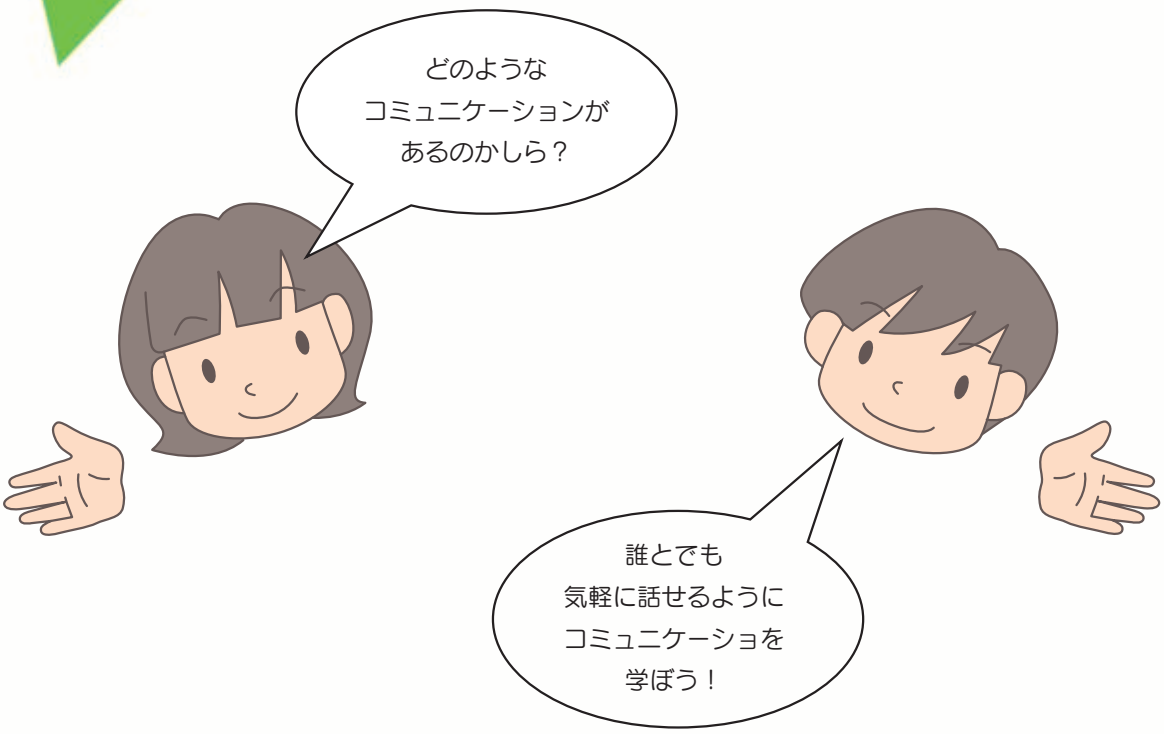
公文書(注)において「障害者」を「障がい者」「障がいのある人」などと表記して、「害」の字のもつマイナスイメージが与える不快な心情を和らげるなど、障がい者の人権に配慮しています。市のこうした取組を通して、障がい者や障がい福祉に対する市民の理解を推進するものです。

ただし、法令等の名称、法令等で使用される用語、組織・施設名などは、ひらがな表記をしません。

（注）市が作成する通知文書、広報紙、チラシ、パンフレット、ホームページなど

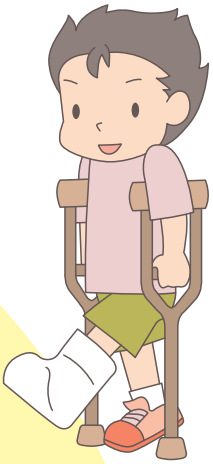
第1部

障がいのある人との コミュニケーション



障がいとは

めあて　障がいについて知ろう。



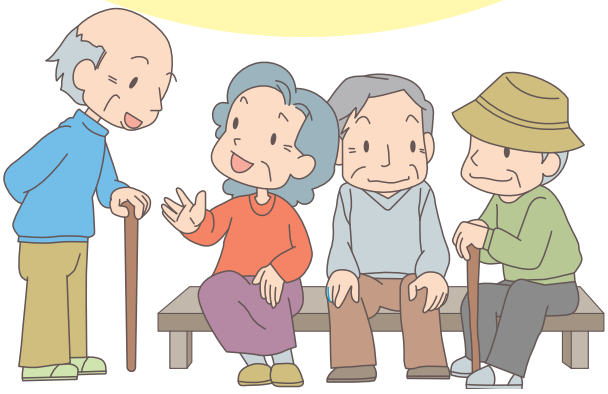
皆さんは、「障がい」という言葉から何を思いますか。

私たちの周りには、視覚（目）、聴覚（耳）や肢体（手足など）または内部（内臓機能）など、身体に障がいのある人が生活しています。身体障がいの他にも、知的障がいや発達障がいなどがある人もいます。

障がいの原因はいろいろです。生まれつきのものや病気、けが（事故）、あるいは年を取ることにより障がいをもつこともあります。これらは誰にでもそうなる可能性のあることばかりです。ですから障がいのある人を特別な存在として考え、ましてや障がいのある人を差別することは誤りです。

障がいのある人は、その障がいのために生きにくさを感じることもありますが、それだけではなく、周囲の理解不足などによる**心のバリア**や環境（設備・機器、制度上の規制）の不備によるバリアのために不便な思いをすることも多くあります。

では、これから皆さんと一緒に「障がい」の意味について学習していきましょう。



国際シンボルマーク

　このマークは「障がい者が利用できる建築物、施設であることを明確に示す世界共通のシンボルマーク」です。

　現在、国や自治体において、建築物への設置基準が制定されています。建築物にマークを設置する際は、国や自治体などの設置基準にもとづき使用することを推奨しています。

　車いすに乗っている人をデザイン化したものなので、「車いす使用者だけ、あるいは肢体不自由者だけを対象としている」という誤解が多いですが、全ての障がい者を対象としたマークです。

1 あなたの周りには障がいのある人はいますか。今までに自分が出会った人を思い浮かべてください。

2 あなたはその人と接するとき、どのようなことに気をつけていますか。また、気をつけたいですか。

第1章　視覚に障がいのある人と

1．視覚に障がいがあるということ

めあて　視覚に障がいがあるとは、どういうことか考えてみよう。
体験を通して障がいのある人の立場になって感じよう。

(1) 視覚に障がいがあるということ

私たちは、目から入ってくる情報を頼りに行動しています。歩くときも目で見て、自分の位置や平衡感覚を確かめながら歩きます。また、少しの段差を簡単に越えたり、避けたりできます。

しかし、視覚に障がいのある人は、少しの段差でもつまずいたり転んだりしてしまう可能性があり、とても危険です。目から情報を得るかわりに音や手触り、においなど、いろいろな感覚で情報を得ながら行動しています。

(2) 視覚障がいの程度

視覚障がいには、見えにくい「弱視」から、全く見えない「全盲」まで、さまざまな程度があります。

弱視は目の機能が弱く、物がよく見えない状態です。色の判別がしにくかったり、視野がせまくなったりする場合もあります。

(3) 体験してみよう

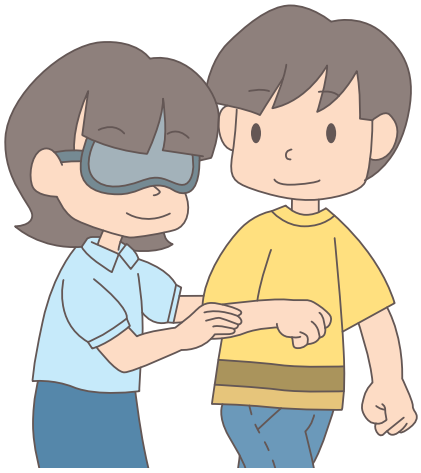
アイマスクをつけて全盲の状態を体験してみましょう。視覚に障がいのある人の立場になって、どのようなことが危ないか、不便を感じるかを体験してみましょう。また、視覚に障がいがあっても自分でできることや、どのような手助けを必要としているかを考えてみましょう。

① 体験をする前に

アイマスクをつける人と手助けをする人の、二人一組になって体験をしましょう。

② 目が見えないことに慣れよう

・いすに座ってアイマスクをつけ、友だちが何をしているか音を聞いて感じてみましょう。
・かばんから本などを出したり、しまったりして手触りで感じてみましょう。
・床に置いたものを拾ったり、アイマスクをした人に鉛筆を渡したりしてみましょう。
・手助けをする人は、周りの様子を伝えながら危なくないように見守りましょう。



※周りの様子を伝えるときは「あちら」「こちら」では分かりません。「右」、「左」や時計の文字盤を例えて、「3時の方向に筆箱がある」という伝え方もあります。

1 視覚に障がいがあると、生活の中でどのようなことが不便か、考えてみよう。

2 アイマスク体験をしてみよう。

（1）アイマスク体験をして感じたことをまとめてみよう。

（2）手助けをして感じたことをまとめてみよう。

2．視覚に障がいのある人とのコミュニケーション ～外出しよう～

めあて　視覚に障がいのある人が快適に外出できるための工夫を考えてみよう。

相手の気持ちになって、少しでも相手の状況を知り、お手伝いをしましょう。

(1) 一緒に歩こう（手助けのしかた）

① 基本の形

・視覚に障がいのある人の斜め前に立ち、ひじをつかんでもらう。
（視覚に障がいのある人と背丈が違う場合は、ひじの上、下または肩をつかんでもらう）
・歩き始めるときに声をかけ、視覚に障がいのある人の半歩前を歩く。
・押したり引っ張ったりせず、視覚に障がいのある人も自分の体と考え、二人分の幅を確保することが大切です。

※基本の形にとらわれることなく、視覚に障がいのある人にどのように手助けをしたら良いのか、聞いてみましょう。

② せまいところで

・「せまいところなので、私の後ろに回ってください」と声をかける。
・手助けをしている腕を後ろに回して合図をする。
・視覚に障がいのある人に自分の真後ろに入ってもらい一列で歩く。

※長く続くときは、肩や背中に触れてもらいましょう。一人分の幅もないときは、お互いに手を触れながら、横歩きをしましょう。

③ 一段の段差で

・「一段上がります」と声をかけ、段差の前で一度止まる。
・先に段差を上がって止まり、視覚に障がいのある人が段差を上がるまで待つ。
・視覚に障がいのある人が段差を上がったら「段差は終わりです」と声をかける。

※段差を下りるときも同様にしましょう。

④ 階段で

・「上り階段です」と声をかけ、常に視覚に障がいのある人より一段先に上る。（ふたりのリズムが乱れないことが大切）
・最後の段では、止まって動かずに視覚に障がいのある人を待ち、上り終わったら「階段は終わりです」と声をかける。

※階段を下りるときも同様にしましょう。

⑤ いすへの誘導

・「いすに座ります」と声をかけ、視覚に障がいのある人の手をいすの背に触れさせる。
・テーブルがある場合には、もう一方の手をテーブルに触れさせる。

視覚に障がいのある人などの外出を手助けするために、市町村などで養成された人を、**ガイドヘルパー**と言います。

(2) 視覚に障がいのある人が外出するための補助用具

① 点字ブロック

歩道や駅などを歩いていると、黄色い点字ブロックを見かけます。
点字ブロックは、線状ブロックと、点状ブロックがあり、足の裏などで触感を確かめます。

・線状ブロック …凸の部分が細長い線状で進む方向を示す。
・点状ブロック …凸の部分が丸い点状で注意を表し、交差点や階段などの危険なところを知らせる。

線状ブロックと点状ブロック

② 音声信号機と音声ガイド

街の中では、点字ブロックのほかに音声を使って知らせるものがあります。

・音声信号機 ……青信号で歩道を横断するときに音声で知らせる。
東西と南北の音が区別してある。

・音声ガイド ……利用者が発信機を持ちスイッチを入れると建物などに設置されたスピーカーから目的地までの案内情報が流れる。

③ 白杖（はくじょう）

視覚に障がいのある人が外出するときは、白杖を使います。

足元は安全か、周りに障害物がないか、段差などを白杖で確かめます。白杖で周りの様子を知るとともに、周りの人に視覚障がい者であることを知ってもらうという役目もあります。

白杖

④ 盲導犬

盲導犬は、視覚に障がいのある人を安全に誘導する大切なパートナーです。盲導犬は一歩前を歩き、障害物を避けたり、段差を教えるだけではなく、視覚に障がいのある人に前に進む勇気、希望、自信を与えてくれます。しかし、盲導犬は地図や信号が分からないため「ゴー ストレート」（まっすぐ進め）「ストップ」（止まれ）といった指示に従い、目的地まで安全に誘導します。

知っていますか　盲導犬のこと

盲導犬の育成は、「社会化」を図るため、生後 45 日ぐらいで母犬から離れていろいろな物や人を見せることから始まります。60 日前後で、パピーウォーカー（子犬育成ボランティア）に預けられ、１歳になるまで、家庭で生活するために必要なルールやマナーを身につけます。これは人間に対して、信頼感や安定感をもつ人間好きな犬になってもらうためです。

その後、訓練センターで盲導犬の適性判断に合格すると、訓練を受け一人前の盲導犬となります。そして障がいのある人のもとで８～ 10 年間活躍します。日本では、平成 26 年３月末現在で 1,010 頭の盲導犬が活躍しています。犬の種類は、毛の手入れをしやすいことや、愛らしい容姿などから「ラブラドール・レトリーバー」が一番多く、「ジャーマン・シェパード」や「ゴールデン・レトリーバー」なども活躍しています。

盲導犬

盲導犬を連れている人に出会ったら、盲導犬に声をかけるのではなく、視覚に障がいのある人に「何かお手伝いすることはありますか?」と声をかけてください。盲導犬にさわったり、ハーネス（白い特別な器具）を引っ張ったり、食べ物を与えたりしないでください。（取材協力 社会福祉法人 中部盲導犬協会）

1 点字ブロックや音声信号機は、どこにありますか。

2 視覚に障がいのある人が安心して外出できるように、自分たちで気をつけることは何か考えてみよう。

3．交流しよう

めあて　視覚に障がいのある人と交流するにはどんな方法があるのか知ろう。
視覚に障がいのある人と気持ちを伝え合おう。

(1) 点字を知ろう

① 点字は、縦3列、横2列の6つの点からなる文字です。
② この6点は、『あ・い・う・え・お』の5つの母音と、『か行・さ行・た行…』などの子音との組み合わせでできています。
③ 点の部分が凸面になっているので、そこを触って読みます。

点字表

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ
わ				を
ん				

ば	び	促音符(小さい「っ」)
ぱ	ぴ	長音符(音をのばす「ー」)
感嘆符(!)	疑問符(?)	句点(。)

きゃ	きゅ	きょ
にゃ	にゅ	にょ
ひゃ	ひゅ	ひょ
びゃ	びゅ	びょ
ぴゃ	ぴゅ	ぴょ

※普通の点字は、ここで示されたものよりも点が高くなります。また、ここでは、普通は空白になるところを、―で示してあります。

最近では、身近な電化製品に点字表示があります。

洗濯機

食器洗い機

他にも身近にある点字を探してみよう。

(2) 音声で伝える

点字の他に、気持ちを伝え合うには、音声で伝える方法があります。聞く人のために正しい発音やアクセント、速さや声の抑揚などに気をつけることが大切です。

音訳…文字情報を音声に変えて、視覚に障がいのある人に届ける作業です。本などを読んでCDやカセットテープに保存して利用していただきます。
（多治見市の広報紙は、「多治見アイ・パートナーの会」の皆さんが音訳し、声の広報として希望者に配布しています。また、声の広報を市公式ホームページで公開しています。）

スピーチオ

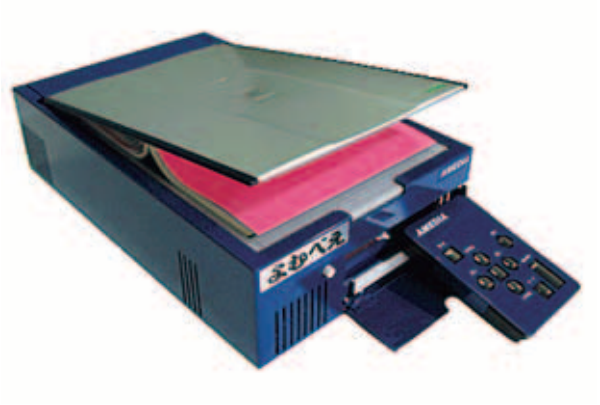
SPコード

① スピーチオは視覚に障がいのある人や高齢者に向けて開発されたSPコード専用読み取り装置です。
② 紙に印刷されているSPコードと呼ばれるものを読み取ることで、記録されている情報を音声で聞くことができます。

SPコードの見本
（原寸大）

視覚障がい者用拡大読書器

視覚障がい者用拡大読書器は、印刷物を音声で読み上げ、画面で拡大表示する機器です。



機能紹介

音声読書機能……とても聞き取りやすい音声で印刷物を読み上げます。

拡大読書機能……画面を接続することで、印刷物を拡大表示できます。

ＣＤ再生機能 ……音楽ＣＤやデジタル録音図書を再生できます。

電子データ再生機能 ……ＵＳＢメモリーやＣＤに保存されたワード、エクセルなどの文書データやオーディオ・音楽データを再生できます。

(3) スポーツで交流しよう

① サウンドテーブルテニス（卓球）

一般の卓球は球がネットの上を越しながら競技を進めていきますが、サウンドテーブルテニスは、ネットの下を通していく競技です。使用する球は見えなくても分かるように音が出ます。

下半身の動きも比較的少ないので、肢体に障がいのある人も参加できます。

サウンドテーブルテニス

② ゴールボール

１チーム３名のプレーヤー同士が、コート内で鈴入りボールを転がすように投球し合って味方のゴールを防御しながら、相手ゴールにボールを入れます。

守る側はサッカーのキーパーのように全身でボールの通過をはばみ、攻める側はボールを相手に取られないように、コースを考えたり変化をつけて転がしたりして、ゴールをねらいます。

ゴールボール

どちらも競技中は、弱視・全盲で不公平が出ないよう全員がアイシェード（ゴーグル型のアイマスク）をつけます。他にも、マラソンや野球など、視覚に障がいのある人に合わせて工夫されたスポーツはたくさんあります。

(4) 岐阜県立岐阜盲学校・中学部生徒からのメッセージ

私は小学２年生までは一般の学校に通っていました。だから地元には仲の良い友達がたくさんいます。その友達とは気軽に話ができて、けんかをしたり言い合ったりもします。隠し事や必要以上に気を使ってもらうこともないから一緒にいてとても楽しいです。対等に付き合うことができるからです。いろいろな人に親切にしてもらえるととてもうれしいです。でも気を使われると逆に話しかけにくいです。友達やクラスにいる仲間と同じように話ができるとうれしいです。

人にはいろいろな個性があります。例えば、足が速い人･ゆっくりの人、計算が速い人･ゆっくりの人、話すのが得意な人･苦手な人…。「目が見えない」のはその個性の一つだと思っています。

生活の中で、目が見える人よりも不便なことが多いことは確かです。例えば、駅や街など人の多いところを歩くことです。あまりの人の多さで周りの人が白杖（はくじょう）に気づいてくれなくて、白杖をけとばされたこともありました。でも、多くの人は、その杖（つえ）を拾って渡してくれたり、杖のところまで連れて行ってくれたりします。

よく、自分の手を取っていろいろと親切に連れて行ってくれる人がいます。でも、何も言わないで連れて行かれると、とても怖いのです。声をかけ、腕や肩を貸してもらい、こちらが腕や肩を手でつかんでいると安心できます。それから、話しかけながら歩いてくれるととても安心です。

今、いろいろな機会で、たくさんの学校と交流をしています。でも、どの学校とも一度きりの交流になってしまうのがとても寂しいです。目が見える人のように手紙のやりとりができないからです。もっともっと交流を深め、いろいろな友達がつくりたいです。

私は今、中学３年生です。つまり受験生。夜遅くまで受験勉強をしています。でも、点字で勉強することは、普通に勉強することに比べて倍ぐらい時間がかかってしまいます。また、うまく理解できないこともあります。特に空間図形が困ります。でも、私は将来の夢を実現させるためにがんばっています。

私は寄宿舎に住んでいるため、自分のことは自分でしなければいけません。だから、勉強できる時間が遅くなってしまいます。点字のタイプライターは音が大きいので、同室の人に迷惑をかけてしまうことになり、気を使わなければならず困っています。でも、同室の人も同じ受験生なので、（この人は就職のための資格試験ですが）お互いに協力しながらがんばっています。

皆さんも自分の夢を実現するために精一杯できる限りのことをしていってほしいと思います。

この学習を振り返って（まとめ）

「第１章　視覚に障がいのある人と」　を学習して

学んだこと　さらに学びたいこと

第２章　聴覚に障がいのある人と

１．聴覚に障がいがあるということ

めあて　聴覚に障がいがあるとは、どういうことか考えてみよう。
体験を通して障がいのある人の立場になって感じよう。

(1) 聴覚に障がいがあるということ

私たちは、さまざまな音に囲まれて生活しています。目覚まし時計の音で目覚めたり、玄関のチャイムでお客さんの訪問を出迎えたり、救急車のサイレンに驚いたり、声を出して会話をしたりと、音を通して伝えられる情報はたくさんあります。

聴覚に障がいのある人は、そうした情報が聞こえないので、目で見たり、手で触ったりして、音を通した情報収集の難しさを補っています。また、外見からは、聴覚に障がいのあることが分からないことや、会話ができないため、人とのコミュニケーションが取りにくいことに困っています。

(2) 聴覚障がいの程度

聴覚障がいは、入ってきた音が脳に達するまでの間に、その流れをさえぎるようなことが起きている状態です。症状としては、耳にふたをしたように聞こえる、音の強弱に対する感覚異常により、会話が聞き取りにくいなどです。聴覚障がいには、聞こえにくい状態から全く聞こえない状態まで、さまざまな程度があります。

聴覚障がいの程度は、「デシベル」という音の大きさの単位で測られます。

(3) 体験してみよう

聞こえない不便さを体験するために、音のない世界を知ったり、音を使わずに相手に気持ちを伝えたりしてみましょう。

人は、声の大きさや抑揚をうまく使って、感情を伝えていますが、声や文字を使わないで、どこまで表現できるでしょう。

① 音のない世界を知ろう

テレビの音を消して、ドラマのワンシーンをどこまで理解できるか、試してみましょう。

そのワンシーンを、あなたならどのように伝えますか。

② 情報を集めてみよう

ことば以外の音、例えば授業を告げるチャイムの音や車の音などの情報をどのように収集していけばよいのか、考えてみましょう。

③ 音を使わずに相手に伝えよう

自分の趣味、好きなスポーツなどテーマを決め、友達と声を出さないで、お互いにいろいろな方法を考え、相手に伝えてみましょう。

1 聴覚に障がいがあると、生活の中でどのようなことが不便か、考えてみよう。

2 自分でテーマを決めて、声や文字を使わずに、友達とお互いに伝え合ってみよう。その時、何が一番大変だったのか書いてみよう。

自分が友達に伝えたいこと	友達が自分に伝えたいこと
伝えるときに大変だったこと	理解するときに大変だったこと

3 聴覚に障がいのある人に情報を伝えるには、どのような方法があるのか考えてみよう。（情報を視覚や触覚でとらえる方法など、聞こえる人にとっても、便利な方法が私たちの身近なところで使われています。）

2．聴覚に障がいのある人とのコミュニケーション

めあて　聴覚に障がいのある人が快適に生活できるための工夫を考えてみよう。

聴覚に障がいのある人とのコミュニケーション手段はいろいろあります。人の言語能力は聞くことによって発達していくので、聴覚障がいの発生が子どもの時か、大人になってからかによって普段使う方法も違ってきます。どんな場合も、伝えようという気持ちが一番大事です。

(1) 手話について

手話は文字通り、手を使って会話をすることです。

生まれつき耳の機能に重い障がいがあったり、補聴器をつけても、ことばが聞き取りにくかったりする場合は、手話というコミュニケーション手段があります。

基本的な手話は、物や生き物の形や日常の動作をまねているので、比較的早く覚えられます。また、手話もことばですから、標準的な手話や方言、流行の手話や若者だけが使う手話、仲間だけが分かる手話などもあります。

手話は、コミュニケーションの一つの方法であるため、聴覚に障がいのある人の全てが必ずしも手話を使うとは限りません。

(2) 読話（口話）について

読話（口話）は、くちびるの動きの形を読み取ってことばを理解します。口の動きが分かるようにはっきりと話をしましょう。

(3) 筆談について

筆談は、手のひらや紙に文字を書いて伝えます。誰にでもできる簡単な方法ですが、短く簡潔に分かりやすく書きましょう。

筆談用ボード

(4) 要約筆記について

要約筆記は、話の内容、会議の進行、講演の内容などをリアルタイムで文字通訳する、筆記通訳のことであり、その手法として全体投影とノートテイクなどがあります。

・全体投影……話し手のことばをすばやく要約して筆記したものを、OHC(注) を使ってスクリーンに映し出す手法で、講演会などで利用されています。

・ノートテイク……聴覚障がい者の隣で話し手のことばをすばやく要約して筆記する手法で、会議や講義などで多く利用されています。

(注)OHC　テキストを含む画像を聴衆に提示するための表示システムの一種です。

(5) 聴覚障がい者用補助用具

聴覚に障がいのある人が困ることの一つは、その場で起こった出来事をすぐに知ることが難しいことです。例えば外出先の駅で、急に電車の到着（発車）時刻が遅れても、案内アナウンスが聞こえないので、「なぜ、予定の時刻になっても電車は到着（発車）しないのだろう」と、不思議に思います。

自宅にいても同じように、台風や地震の災害情報を、ラジオやテレビから収集できません。

こうした場合に活躍するのが、補助用具や手話通訳です。

屋内信号装置

① 自宅の場合

・屋内信号装置…ファックスの受信、玄関チャイムなどの音を光や振動により伝えるもの。

※ファックスやインターネットなどは、私たちにとっても便利なものですが、聴覚に障がいのある人にとっても、大切な見る情報源です。

② 外出先の場合

・振動呼出器……病院の外来や飲食店などで、振動で呼び出しを伝える装置。
（医師の診察を受けるときは、筆談か手話通訳が必要です。）
・携帯電話……メール機能は、外出先での大切なコミュニケーション手段です。
・磁気誘導ループ…講演会などで、磁界を発生させるワイヤーを輪のように這わせ、補聴器を聞こえやすくする装置。

聴覚障がい者シンボルマーク（耳マーク）

聴覚に障がいがあることを表す、国内で使用されているマークです。

聴覚に障がいがあっても、見た目には分からないために、誤解されたり、不利益になったりするなど、社会生活のうえで不安が少なくありません。

このマークは、預金通帳や診察券などに貼って、聴覚に障がいのあることを知らせているため、「聞こえない」ことを理解し、手招きで呼ぶなど、コミュニケーションの方法に配慮をしましょう。

1 聴覚に障がいのある人と会話をするときに、心がけることを考えてみよう。

2 聴覚に障がいのある人のために工夫されたものは、どこにあるのか考えてみよう。

手話通訳という仕事　市役所福祉課『手話通訳員』加藤さんのお話

聴覚障がい者を主人公にしたテレビドラマや映画の影響もあり、聴覚障がい者についての理解や手話が社会に広がりをみせています。日常的に手話で“おしゃべり”できる人たちが増え、聴覚障がい者との交流や情報交換が盛んに行われるようになってきました。

また、「手話通訳をしてほしい！」という依頼も多くなり、これらの依頼に、“いつでも・どこでも・すぐに・正確に”応じられるように、手話通訳のできる人がもっと増えることが望まれます。そして私たち手話通訳者は、聴覚障がい者の方々と「ともに歩む」という気持ちを大切にし、単に「ことば」を伝えるというだけでなく、人と人とをつなぎ、心と心が通じるよう多くの人と触れ合いながら、これからも手話を学び、手話通訳活動を続けていきたいと思います。

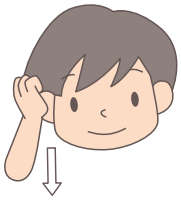
3．交流しよう

めあて　聴覚に障がいのある人と気持ちを伝え合おう。

手の動きだけでなく、顔の表情や、体全体の動きを使って気持ちを表しましょう。

(1) 手話を覚えよう

◎おはようございます。→「朝」① ＋「あいさつ」②



① 右手こぶしを、こめかみにあて、頬にそってあごまで下ろす。

② 両手の人差し指を向かい合わせて立て、指先を曲げる。

◎こんにちは。→「昼（正午）」① ＋「あいさつ」②

① 右手人差し指と中指をたて、額の中央に当てる。

② 上記の「あいさつ」。

◎こんばんは。→「夜（暗い）」① ＋「あいさつ」②

① 手のひらを前に向けて肩幅くらいに開き、目の前で交差させる。

② 上記の「あいさつ」。

◎はじめまして。→「初めて」①② ＋「会う」③

① 左手は手の甲を上にして胸の前に置き、その上に右手を重ねる。

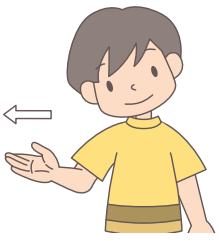
② 左手はそのままで、右手人差し指を伸ばし、他の指は、すぼめながら上に上げる。

③ 両手人差し指を立て、胸の前で向かい合わせ、立てた人差し指を近づける。（指→人、指の腹→顔の意味）

◎お元気ですか?→「体」① ＋「元気」② ＋「～か?」③

① 右手のひらを手前にして、体にそって、図のように円を描く。

② にぎった両手の甲を上にして、胸の前に置き、同時に上下に２度動かす。



③ 胸の前から右手のひらを上に向け、前に出す。（顔をかたむけ、疑問の表情で）

◎よろしくお願いします。→「よい」① ＋「お願いする（頼む）」②

① にぎった右手を鼻の前に置き、軽く前に出す。

② にぎっていた右手を開き、頭を下げながら右手も前に出す。

(2) 岐阜県立岐阜聾学校・中学部生徒からのメッセージ

私たちは、耳から音を聞いたり、ことばを発したりするということは苦手ですが、皆さんと何も変わらない中学生です。生活する時には少し不便なこともありますが、決して不幸ではありません。

私たちに障がいがあるから、とても親切にしてくれたり気を使ってくれたりしてくれるのはうれしいけど、それがかえって辛いこともあります。だから、聴覚に障がいがあるということで、助けてあげなければならない人と思わないでください。

私たちは、同じ中学生として対等な友達づきあいを望んでいるし、けんかをしたり、なぐさめ合ったり、ふざけ合ったりする、普通の友達関係がつくれたらいいと思います。

和太鼓同好会の交流の様子

岐阜聾学校の和太鼓同好会が、中国の上海市第一聾学校と交流をしてきました。また、中学部が、花フェスタで手話コーラスを発表しました。

手話コーラスの様子

この学習を振り返って（まとめ）

「第２章　聴覚に障がいのある人と」を学習して

学んだこと

さらに学びたいこと

第３章　肢体に障がいのある人と

１．肢体に障がいがあるということ

めあて　肢体に障がいがあるとはどういうことか、考えてみよう。
体験を通して障がいのある人の立場になって感じよう。

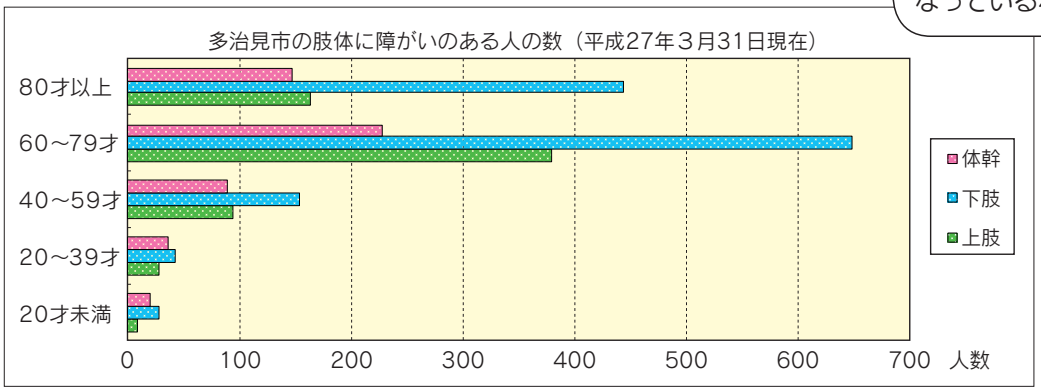
(1) 肢体に障がいがあるということ

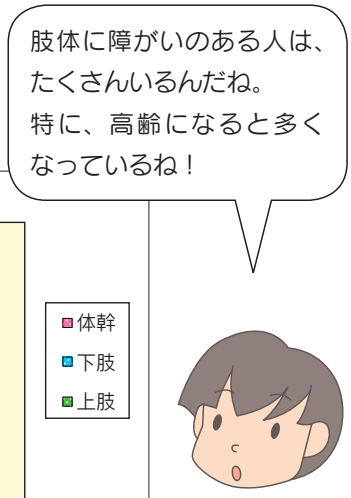
皆さんは指先などにけがをして、不便な思いをしたことはありませんか。肢体に障がいがあるということは、肢体の部分、手（腕）や足などを自由に動かすことができないこと、正常に機能しないこと、あるいは失った状態にあることをいいます。肢体に障がいのある人は、車いすや松葉杖、義肢（義手・義足）、補そう具などを使用して生活しています。義肢とは人工の手足です。補そう具とは動きを確保、または強化するためのものです。

(2) 肢体障がいの種類

肢体障がいについては、生まれた時から肢体に障がいのある人、事故や病気で途中から肢体に障がいのある人など、さまざまですが、大きく次の３つに分かれています。

・**上肢機能障がい**…手（腕）に障がいのあること。
・**下肢機能障がい**…足に障がいのあること。
・**体幹機能障がい**…背骨などに障がいのあること。





(3) 体験してみよう

私たちはごく自然に四肢（両手両足）を動かしています。肢体に障がいのある人の立場になってみるのは難しいかもしれませんが、疑似体験なら自分だけでできるものもあるので体験してみましょう。（ただし、無理をせず、けがをしない範囲でやってみましょう。）

① 車いすを使う人の目の高さを知ろう

まずその場で立ってみてください。そして、周りにどんなものが見えるか感じながら、ゆっくり 360 度回ってみましょう。一番遠くには、何が見えますか。

今度はいすに座ったまま、回ってみてください。立ったときと座ったときでは視界が違っているはずです。

② 両足が使えないことを知ろう

いすに座ったまま、両足を地面から浮かせた状態で床に落ちた鉛筆を拾ったり、高いところの物を取ったりしてみましょう。また、いすに座ったまま、足を動かさずに、くつ下をはいてみましょう。

③ 片手が使えないことを知ろう

利き手をひざの上に置いたまま、片手で定規を使って線を引いたり、はしで豆をつまんだりしてみましょう。また、片手でタオルを洗い、しぼってみましょう。

1 今までに、けがなどで不便だと感じた体験を書いてみよう。

2 肢体に障がいがあると、生活の中でどのようなことが不便か、考えてみよう。
（親指を使わずに人差し指と中指でペンを持ち、考えを書いてみよう。）

<手に障がいのある場合>

<足に障がいのある場合>

3 親指を使わずに書いてみて、どのように感じたのか書いてみよう。

2．肢体に障がいのある人とのコミュニケーション ～ひと声かけて手助けしよう～

めあて　肢体に障がいのある人が快適に外出できるための工夫を考えてみよう。
正しい手助けの仕方を学ぼう。

肢体に障がいのある人が外出するとき、小さな段差や駐輪してある自転車など、私たちには何でもないことが大きな妨げになっています。困っている人を見かけたとき、どのように接すればよいのでしょうか。また、肢体に障がいのある人と外出するときには、どのように手助けしたらよいのか、正しく知りましょう。

(1) 車いすの構造を知ろう

① 車いすは手助けする人、使用する人の双方が使いやすいような、多数の工夫がされています。

② 手助けをする時は、ティッピングレバーが重要な役割を果たします。

・前輪を持ち上げるときの「テコ」の役割です。
そこを踏みつけると比較的簡単に上がります。

・段を上り下りする場合、車いすを持ち上げるときに踏みます。

(2) 手助けの基本

誰にでも手助けはできますが、安易に行うのは危険が伴いますし、迷惑になることもあるので、次のことを守りましょう。

① お手伝いを必要としているか聞く。「お手伝いしましょうか?」

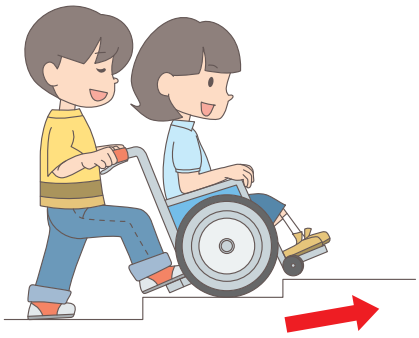
② どのように手助けしてほしいか確認する。

③ 無理をすると危険なので、安全に努める。

④ 一人で大変なときは周りの人に助けてもらう。

(3) 車いすの人と一緒に外出しよう

① 段差の場合

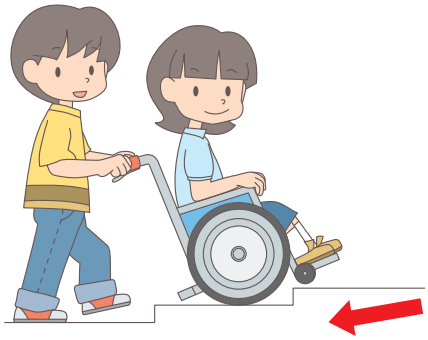


上るとき

・車いすの背のグリップをにぎる。

・片足でティッピングレバーを踏みながら、グリップをにぎった手に力を入れ、グリップを下に押すと車いすの前輪が浮く。

・前輪が浮いた状態で段差を上る。



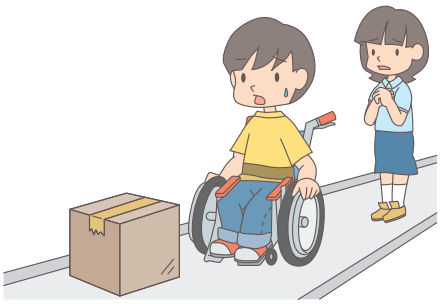
下りるとき

・後ろ向きで下りる

※車いすの人の体重を支えることになるので、不安なときは、周りの人に声をかけて協力してもらいましょう。

② スロープや坂道で

坂道を上り下りする場合も車いすの人の体重を支えることになるので、腕の力が必要です。



スロープの入口に障害物を置かない

上り坂

・後ろから少し体を前にかたむけて、一歩ずつしっかりと押す。

ゆるやかな下り坂

・前向きで車いすを自分の方へ引き寄せながら下る。

急な下り坂

・後ろ向きで一歩ずつゆっくりと下る。
・ハンドブレーキを軽くかけながら、下るほうが良い場合もある。

!! 階段の代わりにスロープがあっても、出入口がふさがれていたり、車いすが通れるだけの幅がなければ役に立ちません。
スロープ付近に自転車を置くときは、通行の妨げにならないように気をつけましょう。

③ その他（出入口やエレベーターなど）

他にも、車いすを使う人を手助けできることはたくさんあります。車いすに乗っていると、両手は車いすを動かすことに使うため、なかなか他のことができません。自動ドアでない出入口の開閉を手伝ったり、エレベーターで車いすを利用する人が乗り降りする間「開」のボタンを押したり、「何階へ行きますか。」と声をかけ階数ボタンを押したりするなど、ちょっとしたお手伝いが手助けにつながります。

そして、「ちょっとしたお手伝いから生まれた手助け」が普及することにより、車いすの人の行動範囲が広がっていきます。

(4) 車いすを使う人のトイレ

車いすを使う人は、車いすの動作ができる広いスペースのあるトイレを使用します。洋式の便座で手すりが必要です。

また、手を洗う洗面台も車いすで使用できるよう工夫されています。赤ちゃんなどのオムツ交換のためのシートが用意されている場合もあります。

この広いスペースのあるトイレは「障がい者用トイレ」でもありますが、小さな子どもや高齢者など誰でも使用する「ファミリートイレ」「多目的トイレ」とも、呼ばれています。

市役所駅北庁舎　多目的トイレ

1 肢体に障がいのある人のために工夫されたものは、どこにありますか。

2 肢体に障がいのある人が安心して外出できるように、自分たちで気をつけたほうが良いことを考えてみよう。

(5) 松葉杖を使う人と一緒に外出しよう

① 一緒に歩こう

・松葉杖を使う人と一緒に歩くときは、松葉杖を使う人の一歩後ろにつくようにします。
・どちらの側につくのがよいか本人に確認します。
・松葉杖を使う人は、バランスがよくありません。肩が触れ合っただけで転倒してしまうかもしれないので、体には触れないようにします。
・どのように手助けをしたらいいのか聞いてみましょう。

② 階段で

・松葉杖を使う人の階段の上り下りに付き添うとき、上りは真後ろに立つようにします。
・反対に下りるときは、正面に向かい合わせになるように立ちます。
・また、肩を貸すときは、左右どちらがいいか、本人に確認します。

③ その他（出入口やエレベーターなど）

車いすを使う人と同様、ドアの開閉やエレベーターのボタンは松葉杖を使う人にとっても、押しにくいものです。また、雨が降ったとき、自分で傘をさすこともできませんし、杖の先が滑りやすく、とても危険です。松葉杖を使う人にとって、突然正面に立たれるのは怖いものですので、手助けをするために声をかけるときは、横からかけるようにしましょう。

(6) 手（腕）に障がいのある人と一緒に外出しよう

字を書く、食事をする、衣服を着る、荷物を持つ、掃除をするなど、私たちは日常生活のほとんどのことに手（腕）を使っています。当たり前のことのようですが、手（腕）はとても大切な役割をしています。

肩から先に障がいのある人、ひじから先に障がいのある人、手首から先に障がいのある人など手(腕)に障がいのある人には、さまざまな人がいます。障がいの程度によって必要な手助けもさまざまです。

手（腕）に障がいのある人と接するときに気をつけること

・手（腕）に障がいのある人が荷物を持っているときは、自分でバランスを保ちながら持っているので、いきなり触ったり、ぶつかったりしないよう注意しましょう。
・指が自由に動かない人は、細かい作業をすることが困難です。切符売り場や自動販売機などで、「財布からお金を出して切符を買ってください。」と頼まれたら、目の前でよく分かるように財布を扱い、切符を買う手伝いをしましょう。
・手（腕）が自由に動かないだけでなく、動作によっては「痛み」を伴う人もいるので注意しましょう。

（7）足が不自由になった佐藤さんからのメッセージ

私が普通に自分の足で歩いていたころは、障がい者用のトイレや出入口のスロープなどを見かけても、それを必要としている人たちがいることは分かっていましたが、自分には関係ないことだと思い、通り過ぎていました。しかし、足が不自由になった今は、なくてはならないものになっています。残念ですが体に障がいがあると、自分だけではどうすることもできないことに直面することがあります。

障がいのある人が安心して外出できるようにするためには、多くの人の理解と協力が必要だと思います。皆さんが外出先でスロープなどを見かけたときは、なぜそこにスロープが必要なのかを少しだけ考えてみてください。

体に障がいのある人に「お手伝いしましょうか?」と声をかけることは、最初は勇気がいることかもしれません。時には断られることもあると思います。体に障がいのある人は、毎日の生活の中で自分のペースをもっていて、自分のペースと手助けしてもらうことが合わない場合は、やむなく「手助け」を断ることもありますが、声をかけてくださった「気持ち」はとてもありがたく思っているはずです。

私はお断りする時も必ずお礼を言うようにしています。そして、本当に手助けが必要な時はとても助かります。皆さんが、困っている人を見かけたら自然に声をかけてあげられる人になってくださると、うれしく思います。

3 雨が降ってきて、一人で困っている松葉杖を使う人を見かけたら、どのように接したら良いのか考えてみよう。

この学習を振り返って（まとめ）

「第３章　肢体に障がいがある人と」を学習して

学んだこと

さらに学びたいこと

第４章　内部障がいのある人と

内部障がいとは

めあて　内部障がいについて理解を深めよう。

(1) 内部障がいとは

内部障がいは、疾患などによる内臓機能の障がいであり、その種類には、心臓機能障がい、呼吸器機能障がい、腎臓機能障がい、膀胱・直腸機能障がい、小腸機能障がい、肝臓機能障がい、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能障がいがあります。

内部障がいのある人は外見からは障がいがあることが分かりづらく、そのため、周囲からの理解が得られにくいなど、ストレスを受けやすい状況にあります。

○心臓機能障がい

不整脈、狭心症や心筋症などのために心臓の機能が低下した障がいで、ペースメーカーを使用している人もいます。

○呼吸器機能障がい

呼吸器系の病気によって呼吸機能が低下した障がいで、酸素ボンベを携帯している人や人工呼吸器を使用している人もいます。

○腎臓機能障がい

腎臓の機能が低下した障がいで、人工透析に通院している人もいます。

○膀胱・直腸機能障がい

膀胱疾患や腸管の通過障がいで、腸壁に新たな排泄口（ストマ）を造設している人もいます。

○小腸機能障がい

小腸の機能が損なわれた障がいで、食事による栄養維持が困難なため、静脈から輸液補給を受けている人もいます。

○肝臓機能障がい

肝臓の機能が低下した障がいで、肝臓移植を受けた人もいます。

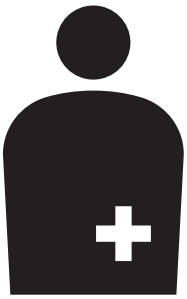
○ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）による免疫機能障がい

ＨＩＶによって免疫機能が低下した障がいで、抗ウイルス剤を服薬しています。

(2) 内部障がいの特徴・困難なこと

○体の内部の障がいなので、外見では分かりにくいことがあります。
○周囲から理解されにくく、誤解を受けることがあり、心理的にストレスを受けやすい状況にあります。
○内部障がいが全身に影響し、体力がなく疲れやすい状態にあります。
○呼吸器機能障がいのある人は、たばこの煙が悪影響を及ぼすことがあります。
○膀胱・直腸機能障がいで人工肛門や人工膀胱を造設している人（オストメイト）には、排泄物を処理できるオストメイト用トイレが必要です。

オストメイトマーク



人工肛門・人工膀胱を造設している人（オストメイト）のための設備があることを表しています。

オストメイト対応のトイレの入口・案内誘導プレートに表示されています。

このマークを見かけた場合には、そのトイレがオストメイトに配慮されたトイレであることを理解し、協力しましょう。

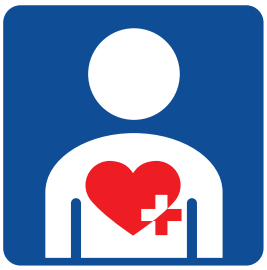
(3) 内部障がいのある人への接し方

○ハート・プラスマークなどをたよりに、こちらから内部障がいのある人に気づくようにしましょう。

○電車やバスなどで席を譲ったり、重い荷物を代わりに持ったりして、体力的な負担を軽くしてあげましょう。

○免疫力が低下している人が多いので、かぜなどの感染症をうつさないようにしましょう。

ハート・プラスマーク



「身体内部に障がいがある人」を表しています。身体内部に障がいがある人は外見からは分かりにくいため、さまざまな誤解を受けることがあります。

このマークを着用されている人を見かけた場合には、内部障がいへの配慮について協力しましょう。

1 内部障がいのある友達が学校で生活するために、あなたができるサポートは何かを考えてみましょう。

2 内部障がいのある人が地域で生活する上で、みんながができるサポートは何かを考えてみましょう。

第５章　知的に障がいのある人と

知的障がいとは

めあて　知的障がいについて理解を深めよう。

(1) 知的に障がいがあるということ

知的に障がいがあるとはどのようなことでしょうか。一つは、言葉を使ったり、記憶したり、抽象的なことを考えたりすることが、人より時間がかかったり難しかったりします。

もう一つは、社会の仕組みや流れに上手に対応できず、仕事の手順を覚えたり、人とのやりとりに機敏に対応したりするのが難しいことがあります。

(2) 知的に障がいのある人をサポートするためには

知的に障がいのある人も、必要な支援を受けながら地域で暮らすようになってきました。

以前は、自分が住み慣れた地域から離れた施設で暮らす人が多くいましたが、最近では、知的に障がいがあっても、数人で暮らすグループホームなど地域で自立した生活を望む人が増えてきています。

こうした地域の住まいは、グループホームで世話をする人やボランティアの方々の支援が必要になりますが、なによりも地域でともに生活する皆さんの理解により広がっていきます。

(3) 知的に障がいのある人とのコミュニケーション

知的に障がいのある人には、個人差はありますが次のような特徴があります。

① 複雑な話や抽象的な話が理解しにくい人もいる。
② 人に何かをたずねたり、自分の意見を言ったりすることが苦手な人もいる。
③ 漢字の読み書きや計算が苦手な人もいる。
④ 一つの行動に執着したり、同じ質問を繰り返したりする人もいる。

知的に障がいのある人と話をするときは、いきなり強い調子で話しかけたりせず、相手の注意を引きつけてから、穏やかにやさしい口調で「どうしましたか」などと声をかけましょう。一度にたくさんのことを言われると混乱しますので、短い文章で「ゆっくり」「ていねいに」「くり返し」説明し、内容が理解されたことを確認しながら対応しましょう。「あれ」「それ」といったあいまいな表現や抽象的な言葉を使わず、具体的にはっきりと説明しましょう。言葉だけで伝わりにくい場合は、体を使って表現したり、また、漢字にふりがなをふったり、絵や図を使ったりするなど、分かりやすく説明しましょう。

(4) 知的に障がいのある人の生活

知的に障がいのある人は、社会や地域の福祉施設・作業所などで、それぞれの得意なところを生かしながら、支援を受けて働いています。

また、他にも一般製造業から流通・販売・サービス業まで、知的に障がいのある人たちが幅広い分野で働けるようになりました。

就職前後に、一緒に働きながら仕事や職業生活を教えてくれる「ジョブコーチ」による支援を受けたり、会社などの実際の職場で職業訓練を受けたりしてから、就職を目指す人が増えてきました。

多治見市では、市の仕事のうち障がいのある人ができる作業を、障がい者施設にお願いすることで、訓練する場を提供し、働くことの充実感、大切さを感じてもらいたいと考えています。

ＪＲ多治見駅　階段の清掃

ＪＲ多治見駅　南北連絡通路の清掃

市有地の草刈り

ＪＲ多治見駅　多目的トイレの清掃

市役所からお願いされた仕事を一生懸命している、知的に障がいのある人

1 知的に障がいのある人と話をするとき、あなたはどのように対応しますか。

2 知的に障がいのある人が地域で生活するために、私たちができることは何か考えてみましょう。

第６章　発達障がいのある人と

発達障がいとは

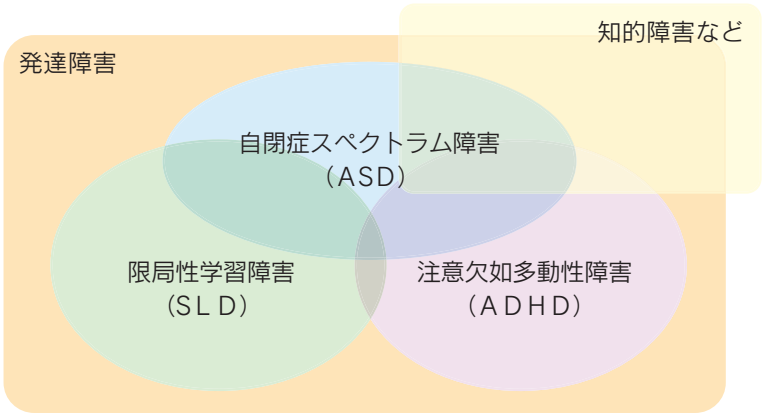
めあて　発達障がいとはどういうことか、知ろう。
どのように接したらよいか、考えてみよう。

(1) 発達障がいとは

発達障がいは、脳機能の発達が関係する障がいと考えられていて、小さい頃からその症状が現れています。発達障がいのある人は、コミュニケーションや対人関係をつくることを苦手に感じることもあり、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることもあります。

それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障がいによるものだと理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないでしょうか。

早い時期から障がいに気づき、周囲の理解が得られ、能力を伸ばすための療育などの必要な支援や環境の調整が行われることが大切です。



(2) 発達障がいの特徴

自閉症スペクトラム障害（ASD）

自閉症スペクトラム障害は、「言葉の発達の遅れ」「コミュニケーションの障がい」「対人関係・社会性の障がい」「パターン化した行動、こだわり」などを特徴とする障がいです。３歳頃までには何らかの症状がみられますが、幼児期には障がいがあることが分からず、成長とともに症状が現れる場合もあります。また、自閉症スペクトラム障害の人の中には知的障がいを伴う人もいますが、知能に遅れがない人もいます。

注意欠如多動性障害（ADHD）

注意欠如多動性障害は、「集中できない（不注意）」「じっとしていられない（多動・多弁）」「考えるよりも先に動く（衝動的な行動）」などを特徴とする障がいです。注意欠如多動性障害の特徴は、通常７歳以前に現われます。多動や不注意といった様子が目立つのは小・中学生の頃ですが、思春期以降はこういった症状が目立たなくなるとも言われています。

限局性学習障害（SLD）

限局性学習障害は、全般的な知的発達に遅れはないのに、**「聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難がある」**ことを特徴とする障がいです。

(3) 発達障がいのある人とのコミュニケーション

発達障がいがあるといっても、障がいの種類や程度、年齢や性格などによって現れ方が異なり、生活の中で困難なこと、苦手なことも一人ひとり違います。そのため、一人ひとりの特徴に応じた接し方を心がけましょう。

① 視覚的な情報を提示して説明する

自閉症などの特性をもっている人の多くは、言葉で言われるよりも、目で見て分かる情報のほうが理解しやすいと言われています。その人が理解している言葉を使い、写真や絵などを添えて説明しましょう。

② 説明や指示は短い文で、順を追って、具体的にする

発達障がいのある人は、あいまいな表現を理解するのが苦手な人もいます。言葉で説明するときは、短い文で、一つずつ順を追って、具体的にしましょう。

③ 善悪やルールをはっきりと説明する

発達障がいのある人は、暗黙の了解や社会のルールが分からないことがあります。いけないことや迷惑なことに対し、具体的にどのようにしたらよいかを説明しましょう。

④ 発達障がいのある人を温かく見守る

発達障がいのある人がパニックなどを起こしているときは、刺激しないように、また危険がないように配慮しながら、落ち着くまでしばらく見守りましょう。

1 発達障がいのある友達が学校で生活するために、みんなができるサポートは何か考えてみましょう。

2 発達障がいについて、なかなか理解が進まないのが現状です。理解を進めるために、どのようなことをしたらよいのか考えてみましょう。

第7章　障がい者福祉のまとめ

福祉の考え方が生まれた背景

めあて　福祉の考え方が生まれた背景を知ろう。
誰もが暮らしやすいように、身の周りでどのような工夫がされているのか、考えてみよう。

(1) ノーマライゼーションとは

「ノーマライゼーション（normalization）」とは「障がいのある人を特別な人と見るのではなく、障がいのある人が社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきで、ともに生きる社会こそがノーマル（あたりまえ）だ。」という考え方です。

この考え方が生まれたのは、1950年代の後半のことです。デンマークの知的障がい者の親の会の運動がきっかけとなって、後に「ノーマライゼーションの父」といわれる故バンク・ミケルセン氏が唱えたものです。これは、スウェーデンやアメリカなどでも発展し、世界に広まった障がい者福祉の最も重要な考え方です。

現在ノーマライゼーションは、知的に障がいのある人だけでなく、身体に障がいのある人や高齢者など、福祉の全ての領域に共通する基本的な考え方として理解されています。

(2) バリアフリーとは

「バリアフリー」とは、「障がいのある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）する。」という意味です。

1974年に国連障害者生活環境専門家会議が「バリアフリー・デザイン」という報告書を出した頃から、「バリアフリー」や「バリアフリー・デザイン」という言葉が使われるようになりました。

もともとは建築関連の用語として登場し、段差の解消など物理的障壁の除去という意味合いが強かったのですが、現在ではより広く社会制度、文化･情報、意識･心理面での障壁（バリア）の除去（フリー）という意味でも用いられています。

みんなでつくる「誰もが暮らしやすいまち」

道路や建物をバリアフリーにしたり、障がいのある人が一人で外出できるように訓練をしたりしても、道路上に看板や商品などの障害物があると、とても迷惑です。特に自転車や路上駐車は迷惑で、とても危険です。例えば、自転車や自動車が点字ブロックをふさぐと、道しるべを失ってしまう人がいます。

また、体に障がいのある人が車を駐車したくても、健常者が障がい者用駐車場に車を停め、空いていないこともあります。このように、私たち自身がバリアをつくってしまわないよう、障がいのある人や高齢者をはじめ、誰もが暮らしやすいまちを、みんなでつくっていきましょう。

(3) ユニバーサルデザインとは

「ユニバーサルデザイン」とは、「さまざまな個性や能力、障がいに関わらず、あらゆる人が使える設計や企画（デザイン）」という意味です。

ユニバーサルデザインは、アメリカのノースカロライナ州立大学デザイン学部ユニバーサルデザインセンターの創設者である故ロン・メイス氏によって提唱されました。

それは、「全ての人にとって、できる限り利用可能であるように、製品、建物、環境をデザインしたものであり、また、デザイン変更や特別仕様のデザインが必要なものであってはならない。」というものです。

このような中で、製品やサービスにおいて障がいのある人や高齢者を特別扱いしない考え方としてユニバーサルデザインがあるのです。

多治見市のバリアフリー整備について

長年にわたり築かれてきた街を一斉に改修することは困難なため、多治見市では「バリアフリー整備計画」を作り、計画的に整備し、誰もが使いやすいまちづくりを目指しています。

≪ながせ商店街≫

改善前

・商店などの建物と道路の間に段差があります。
・タイル貼りの道路は、タイルが傷むと歩きにくくなります。

改善後

・商店などの建物と道路の間の段差をなくしました。
・水はけのよい排水性舗装材に変え、歩きやすい道路にしました。また路側帯（白線で区分された道路の端の部分）を色分けすることにより、車道と分離しました。

≪太平町（福祉センター付近）の道路≫

改善前

・歩道の幅が狭いです。
・歩道と車道の間に段差があります。

改善後

・歩道の幅を広げました。
・歩道と車道の間の段差をなくしました。
・点字ブロックを設置しました。

バリアフリーに配慮した市役所駅北庁舎

バリアフリーマークについて

多治見市が独自に設けているマークです。
正式には、「バリアフリー適合証」といい、基準を満たす施設に交付されます。
高齢者・障がいのある人・小さな子どもを連れた人たちが、施設を安心して利用できるように情報提供し、市民や事業者の皆さんのバリアフリー意識を高めることを目的としています。

1 身近なところでバリアフリーやユニバーサルデザインを見つけ、どのような工夫がされているか考えてみよう。

学校における福祉

めあて　学校では誰もが過ごしやすいようにどのような支援をしているか知ろう。

(1) インクルーシブ教育（支援児包容教育）

学校では、障がいの有無及び程度に応じ、学びの場を分けるのではなく、同じ学びの場においてともに学ぶことを追及するとともに、個別の教育的支援を必要とする子どもに最も的確な指導を行うことを目指しています。

(2) 特別支援学級

小学校、中学校の中には、教育的支援を必要とする子どもの教育や学校生活を支援するために、特別支援学級や特別支援教育支援員などが設置・配置されています。皆さんの学校の中にも、特別支援学級が設置されているのか確認し、その意味を理解してみましょう。

○特別支援学級とは

学校の中には、自閉症、学習障がい、知的障がい、視覚障がい、聴覚障がいまたは病弱など教育的支援を必要とする児童生徒たちのために、個別の教育的支援をする特別支援学級が設置されています。

特別支援学級では、児童生徒の障がいの程度や能力に応じて、その児童生徒に適した専門的なサポートを行いながら、生活や学習の向上を図ります。

その他の学校でのサポートとして、多治見市では特別支援教育支援員としてキキョウスタッフを配置しています。支援が必要になる児童生徒に対して、その状態に応じて学校における生活の介助や学習上のサポートを行います。

【多治見市の小・中学校での特別支援学級】

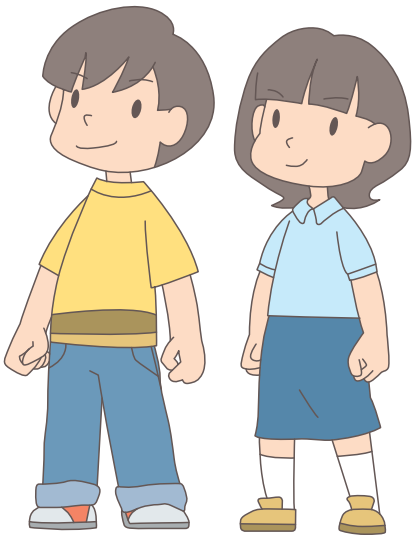
※平成28年3月末現在の状況

	小　学　校	中　学　校
知的障がい学級	養正、精華、共栄、昭和、小泉、池田、滝呂、南姫、根本、北栄、脇之島、笠原	陶都、多治見、小泉、南ヶ丘、北陵、南姫、笠原
自閉症・情緒障がい学級	養正、精華、共栄、昭和、小泉、池田、滝呂、南姫、根本、北栄、脇之島、笠原	陶都、多治見、平和、北陵、南姫
難聴学級		笠原
通級による指導(注)　言語	養正、根本	
通級による指導　発達等	養正、根本	

(注)通級による指導　通級による指導は、言語や発達等に障がいのある児童が、小学校の通常の学級で学びながら、週1～3時間の専門的な指導を受けることのできる教育形態です。

この学習を終えて（まとめ）

「第1部 障がいのある人とのコミュニケーション」を学んで感じたことを書いてみよう。



第2部

多治見市に住む
高齢者・障がいのある人の生活

第1章　高齢者の生活

1．高齢社会とは

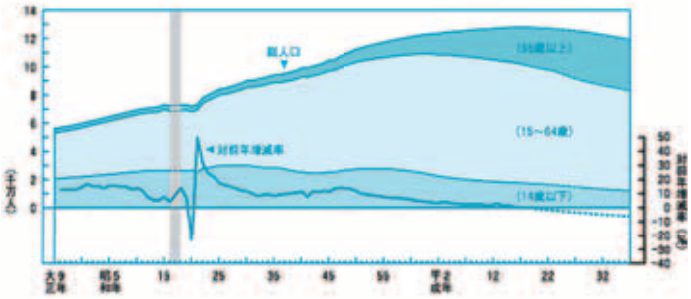
めあて　高齢社会について考えてみよう。

(1) 日本の高齢化

現在、日本は急速に高齢化が進んでいます。高齢化とは、総人口に占める高齢者（65歳以上の人）人口の割合が増加することです。また、日本人の平均寿命(注)は男性が80.50歳、女性が86.83歳です。（厚生労働省「平成26年簡易生命表」参考）

(注)平均寿命　今0歳児の赤ちゃんが、何歳まで生きられるかの命の平均的な長さのことです。

総人口の推移



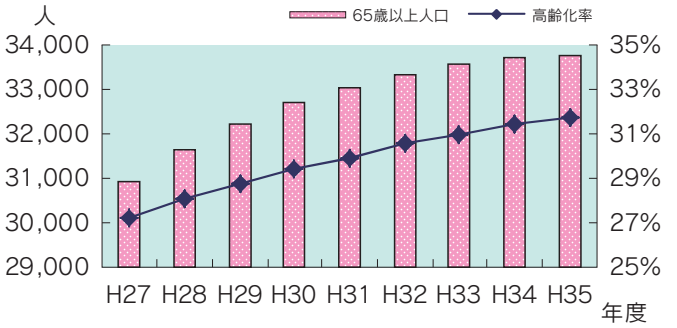
昭和16年～18年の年齢別の推計は行われていない。
資料）総務省統計局「日本の統計」

(2) 多治見市の高齢化

多治見市は、陶磁器の産地であると同時に名古屋市周辺に勤務する人たちの住宅地でもあります。

65歳以上の高齢者は年々増え続け、平成32年度には30%を超えると予想されています。

多治見市の65歳以上人口と高齢化率の推移



資料）多治見市高齢者保健福祉計画2015

1　どうして社会が高齢化したのか考えてみよう。

2　高齢化が進むとどのような問題が出てくるか、考えてみよう。

2. 認知症とは

めあて　認知症について考えてみよう。

(1) 認知症とは

日本は世界でトップクラスの「超高齢社会」を迎え、長生きする人が増えています。長生きできることは喜ばしいことですが、それに伴って「認知症」という病気が増えてきました。

「認知症」は、誰にでも起こりうる脳の病気です。脳は、記憶（覚える・思い出すなど）、感覚（見る・聞くなど）、思考（理解・判断など）、体全体の調節（呼吸・睡眠・体温など）といった、生きていくために必要なほとんどの働きをコントロールしています。しかし、さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、脳の働きが悪くなる病気で、物忘れがひどくなったり、それまでできていたことができなくなってしまいます。

(2) 認知症の症状

① 新しいことが覚えられない、すぐ忘れてしまう

たとえば…ものをどこに置いたか忘れてしまう。

「昨日の夕飯に何を食べたか」だけでなく、食べたこと自体を忘れてしまう。

② 時間や日付、場所、家族の顔が分からなくなる

たとえば…夜中に朝食の支度をする。昼間にパジャマに着替えて寝ようとする。

自分が今どこにいるのか分からなくなる。道に迷ったり、部屋を間違える。

家族に向かって「どちらさまですか?」とたずねたり、自分の娘を「お母さん」と呼んだりする。

③ 考えるスピードが遅くなり、答えるまで長い時間がかかったり、簡単な計算ができなくなったりする

④ ２つ以上のことが重なると理解できなくなる

⑤ 自動販売機や自動改札、銀行のＡＴＭ、洗濯機など機械の使い方が分からなくなる

⑥ 計画や手順が苦手になる

たとえば…料理の手順を忘れる。複数の料理を同時に作れなくなり、品数が減る。

⑦ 意欲がなくなる

たとえば…整理整頓や掃除をしなくなったり、だらしなくなったりする。

長年続けていた趣味をやめてしまう。

笑顔が少なくなる。

(3) 認知症の人と接するときの心構え

認知症の人は分からないことやできないことが増えているため、本人は不安な気持ちになっています。笑顔を忘れずに接しましょう。

① ゆっくり一つずつ話しましょう。

② 認知症の人の視野に入ってから話しかけましょう。

③ 認知症の人の言葉はすぐ出てこないので、ゆっくり待ちましょう。言葉がうまく出なかったり、ちぐはぐなことを言ったりしても、うなずくなどしてゆっくり聞いてあげましょう。

認知症サポーターになろう

認知症サポーターとは、認知症の人の「応援者（サポーター）」のことです。

特別なことをする人ではなく、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守る人のことです。

3．高齢者体験をしてみよう

めあて　「高齢になる」とはどういうことか、体験してみよう。

高齢になると、目が見えにくくなったり耳が聞きにくくなったり、体の動きが遅くなったりして、自分の思うように動くことが難しくなります。次の方法を使って、高齢者体験をしてみましょう。

［高齢者体験用の各用具は、多治見市社会福祉協議会で、貸し出しをしています。］

(1) 目が見えにくい体験

視覚障がい体験用ゴーグルをつけて、物が白くにごって見える、老人性白内障の体験や、視野が狭くなる体験をしてみましょう。

（ゴーグルを使用しない場合は、黄色いセロハンを４枚くらい重ねて、周囲の物を見てみましょう。高齢者になると、周りの物が黄色くにごって見える場合があります。）

視覚障がい体験用ゴーグル

(2) 耳が聞こえにくい体験

聴覚障がい体験用の用具をつけて、耳が聞こえにくい体験をしてみましょう。

（用具を使用しない場合は耳せんをして、さらに耳を自分の手でふさいで、友達の声を聞いてみましょう。どのように聞こえるでしょうか。）

聴覚障がい体験用の用具

(3) 体が動きにくい体験

① 自分の思うように体が動きにくいことを知ろう

体におもりやサポーターをつけます。足首、ひざ、腕など体全体につけます。

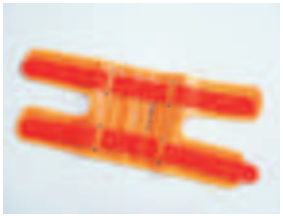
全部で 6kgほどつけてみましょう。体の下のほうから装着するとよいでしょう。

装着した状態で、階段を上ったり下りたりしてみましょう。その時、必ず補助者をつけましょう。

高齢者体験の様子

体につけるおもり

ひじ用サポーター

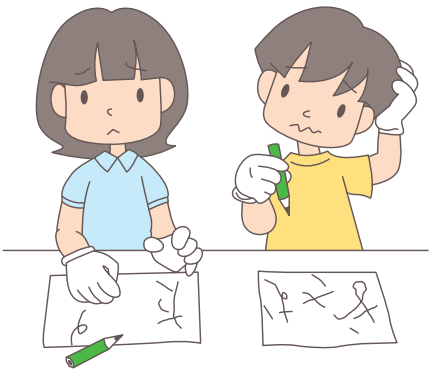


ひざ用サポーター

手首や足首につけるおもり

② 手先が動きにくいことを知ろう

軍手を２枚重ねて手にはめて、筆箱の中から鉛筆を取り出してみましょう。そして、文字を書いてみましょう。また、筆箱の中から定規を取り出して、鉛筆で線を書いてみましょう。



1 目が見えにくい体験について

（1）あなたの周囲の物や人はどのように見えたのか書いてみよう。

（2）新聞、広告、本などの文字を読んだときどのように見えたか書いてみよう。

2 耳が聞こえにくい体験について

（1）友達の声がどのように聞こえたか書いてみよう。

（2）高齢者と話すときに、どのような工夫をしたらよいか考えてみよう。

3 体が動きにくい体験について

（1）体におもりをつけて階段を上り下りしたとき、つけた時とつけなかった時と、どのように違ったか書いてみよう。

（2）軍手を二重につけたときは、普通に文字や線を書くときと比べ、どのような不便さを感じたか書いてみよう。

4．ビリヤードを楽しむ谷口 幸平（たにぐち こうへい）さん

めあて　①自宅で暮らしている高齢者の生活を知り、高齢者の気持ちを考えてみよう。

＜紹介＞

・昭和 14 年生まれ（平成 28 年4月現在 76 歳）
・愛知電機に勤めた後、家業を継いだが 61 歳の時に腰を痛め、現在は仕事をしていない。
・３人の子どもは独立し、奥様と２人で暮らしている。

(1) 谷口さんのお話

仕事の関係で腰を痛めて脊柱管狭窄症になり、61 歳の時に歩くことが困難になりました。病院では手術をしないと歩けるようにならないと言われ手術をしましたが、すぐには歩けず、杖を使って歩けるようになるまで３ヶ月かかりました。

真剣な表情でラインをよむ谷口さん

リハビリのため散歩などをしている時に先輩に声をかけてもらい、ビリヤードを始めました。ビリヤードを始めて８年になりますが、かさはら福祉センターの休館日を除いて毎日やっています。１日ビリヤードをしていると 4,000 ～ 5,000 歩くらい歩くので杖を使わなくても歩けるようになりました。

仕事を辞めてから心配事は何もないし、ビリヤードが一番の趣味で生きがいです。家族も喜んでくれているので、ビリヤードを始めてよかったと思っていますし、そのきっかけを作ってくれた先輩に感謝しています。

(2) とても楽しそうな笠原ビリヤード倶楽部の様子

ビリヤード倶楽部のメンバーは総勢 36 名います。

かさはら福祉センターでは、開館時間内は自由にビリヤードができるので、入れ替わりはありますが、常時 10 名くらいの人が来て、会話を楽しみながら活動しています。ベテランの人が初心者の人にやさしく教えるなどして本当に楽しそうです。

メンバーに見守られる谷口さん

(3) ビリヤード仲間のお話

谷口さんは、本当にきちんとしてまじめな人なので倶楽部の会計をお願いした時も安心して任せることができました。

地元の人なので、メンバーのこともよく分かっているし、大会の時のお弁当の手配なども率先してやってくれるのでいつも頼りにしています。

ビリヤードを始めた頃は歩くことが困難でしたが、一緒に楽しんでいるうちに、奥さんが驚くくらい歩けるようになったので、今ではビリヤードに行く時は「いってらっしゃい」と気持ちよく送り出してくれるそうです。

谷口さんの他にも、病気になり、リハビリのためにビリヤードを始めた人がたくさんいます。ビリヤードは頭の体操や腕・足の体操にもなるので、楽しみながらリハビリができて、とてもいいです。

1 谷口さんが楽しみにしていることや、うれしく思っていることはどのようなことか、考えてみよう。

2 谷口さんが心がけていることはどのようなことか、考えてみよう。

3 高齢者から学ぶことは何か考えてみよう。

5．在宅サービスを利用して生活する西川　壽（にしかわ ひさし）さん

めあて　②自宅で暮らしている高齢者の生活を知り、高齢者の気持ちを考えてみよう。

＜紹介＞

・昭和7年生まれ（平成 28 年4月現在 83 歳）
・以前は両親、兄弟、妻、子どもの大家族でしたが、今は一人住まいです。
・週に3回デイサービス(注)を利用しています。

ジグソーパズルを楽しむ西川さん

(1) 西川さんの生活

足腰の弱った独居老人で生活は大変なことばかりですが、息子が食料品などを調達してくれるので、安心しています。

(2) 楽しみにしているデイサービス

デイサービスで一番うれしいことは入浴です。家ではなかなか風呂に入れません。水を入れて沸かし、一人だけでの入浴はできません。夏の内はシャワーで済ませることはできますが、一年中は無理です。

レクリエーション体操をする西川さん

(3) 西川さんの心配事

耳が大変不自由なため、対話の相手にご迷惑をかけているのではないかと心配しています。

(4) 職員さんのお話

若い頃、西川さんは税務署に勤められたことがあり、とてもまじめで気配りが上手で、他の利用者の人にも声かけをしてくださっています。

一番すてきなことは、ジーパンがよく似合っていて、ダンディーなところです。

これからも元気で、青年の気持ちを持ち続けてほしいです。

(注)デイサービス　通所介護施設などで、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練などを日帰りで行います。

1 自宅で過ごすことが多い西川さんの生活から、どのような福祉サービスがあるとよいか考えてみよう。

2 デイサービスは、西川さんにとってどのような役割を果たしているのだろうか。

3 家族に介護の必要な人がいるとき、どのような手伝いができるのか考えてみよう。

☆在宅サービスについて

平成 12 年4月から、高齢者介護の問題を社会全体で支えていくために、介護保険制度がスタートしました。この制度では、誰もが高齢者になり介護が必要になっても安心して暮らせるよう、介護を必要としている高齢者が、身体の状態によって介護認定を受けて、自分に必要な福祉サービスを受けることができます。サービスには、在宅サービスと施設サービスがあります。

☆在宅サービスの種類

訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護、認知症対応型共同生活介護、特定施設入所者生活介護、福祉用具貸与、福祉用具購入、住宅改修

お風呂に入ることが
困難な人の自宅を訪問し、
入浴の手助けを行います。

福祉用具貸与
（電動ベッドなどを借りられます）

住宅改修
（手すりの設置や段差の解消など）

訪問入浴介護
（移動入浴車）

6．特別養護老人ホームで生活する奥村 幸子（おくむら さちこ）さん

めあて　施設で暮らしている方の生活を知り、高齢者の気持ちを考えてみよう。

＜紹介＞

・昭和 9 年生まれ（平成 28 年4月現在 82 歳）
・ご主人と娘さん家族と同居中に病気を発症。
・平成 25 年に、特別養護老人ホームに入所、一人部屋で生活している。
・現在は車いすを使っている。

お土産に囲まれた奥村さん

〈1日のスケジュール〉

7:00	起床、着替え
7:30	朝食
9:30	集会室で体操やお話をする
12:00	昼食
13:30	レクリエーション
	入浴（週２回）
17:00	夕食
21:00	就寝

(1) 施設に入ったきっかけ

65 歳のとき、病気を発症し、２度の手術をした後、３年間は自宅でご主人に介護をしてもらっていましたが、ケアマネジャーの方の勧めもあり、特別養護老人ホームで暮らすことになりました。

(2) 奥村さんのお話

洋裁学校を出ているので、病気になる前は洋裁をよくやっていましたが、細かいことができなくなったことと趣味でやっていた踊りができなくなったことは残念です。

自分一人だけだとさみしいですが、みんなと友達になって話をしたり、言いたいことを言う私にスタッフの方が冗談を言ってくれたりするのが楽しいです。

時々、ひ孫が会いに来てくれたり、孫が旅行のお土産を持ってきてくれたりすることもあるので、とてもうれしいです。

おじいさんが、予定のない日はいつも来てくれるし、看護師をしている娘も会いに来てくれた時はよくしてくれるのでとても感謝しています。友達は「あなたみたいな幸せな人はいない」と言ってくれます。

(3) ご主人のお話

車いすで生活するようになってから３年間は自宅で世話をしていましたが、ケアマネジャーの方がこの施設を探してくれて、スタッフの方もとてもよくしてくれるので感謝しています。

４ヶ月に一度、病院に検査に行っていますが、これ以上悪くならず、いつまでも元気でいてほしいと思っています。

(4) 職員さんのお話

奥村さんのご家族はみんなやさしく、よく会いに来てくださるので、スタッフにはできない精神的なフォローをしてもらえて、とてもありがたく思っています。

仲の良い奥村さんご夫婦

1 奥村さんが介護施設で生活していてよいことはどのようなことか考えてみよう。

2 理想の老人ホームについて考えてみよう。

3 施設で生活する高齢者を訪ねるとき、どのようなことに気をつけて高齢者と接したらよいのか、また、どのようなことをすると喜ばれるか考えてみよう。

<気をつけること>

<喜ばれると思うこと>

介護施設サービスの紹介

1　**介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）**
介護が必要で、なおかつ事情があって自宅で暮らせない高齢者のための生活施設です。

2　**介護老人保健施設（老人保健施設）**
病院から退院後すぐに自宅で暮らせない高齢者のためのリハビリ施設です。

7．施設サービスを利用して生活する高齢者

めあて　老人保健施設･グループホームは高齢者にとってどのようなところか考えてみよう。

(1) 介護老人保健施設（老人保健施設）「アルマ・マータ」を訪ねて

介護老人保健施設は、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師や看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員など多職種協働による生活リハビリを支援する施設です。

また施設では、季節に応じて行事を企画し、**音楽療法**、茶道、陶芸なども、利用者の希望により行うことができるようになっています。

音楽療法
音楽に合わせて体を動かします。
ボランティアの協力で日々のリハビリに取り入れています。

リハビリ指導

リハビリの指導をする
作業療法士・理学療法士（P71 参照）のお話

老人保健施設が病院と違うところは、病院が治療目的であるのに対して、ここは、「生活」を含めたリハビリがあるということです。高齢になると年々症状も悪くなりますし、リハビリをして必ずしも全ての人が元気になるとは限りません。逆に病院に戻る人もいます。そんな時は辛いですね。

リハビリでは本人の生き方、性格を尊重して高齢者と接するよう心がけています。

(2) グループホーム「シュアー」を訪ねて

グループホームは、在宅介護が困難な認知症高齢者が少人数で家庭で暮らしているような雰囲気の中で生活する施設です。この施設では、現在９名が入居され、専門知識のあるスタッフによる週３回の学習療法(頭の体操）と週１回の音楽療法を行っています。建物は、民家が点在している中にあり、個室になっています。また、いこいの場として食堂があり、入居者が食事や団らんを楽しみます。入居者の家族は、いつでも訪問できます。

職員さんのお話

ここでは、決められたスケジュールはなく、入居している方を尊重し、一人ひとりのペースに合わせて１日を過ごすことができるように心がけています。私たちスタッフは、自身で判断することが難しくなった方のお手伝いをする気持ちで接しています。

趣味の盆栽の手入れをする入居者

入居されている方は、以前からやっていた趣味を継続したり、仕事の延長のように１日を過ごす方もいたりして、とても楽しそうなので、私たちも元気をもらっています。

毎日過ごす個室の様子
入居する前に使っていたものをそのまま使用しています。

1 老人保健施設は、高齢者にとってどのようなところか考えてみよう。

2 グループホームは、高齢者にとってどのようなところか考えてみよう。

この学習を振り返って（まとめ）

あなたが理想とする高齢社会はどのような社会ですか。

「第1章　高齢者の生活」を学習して

学んだこと

さらに学びたいこと

第２章　障がいのある人の生活

１．視覚に障がいのある小林 康史（こばやし やすし）さん

めあて　自宅で暮らしている障がいのある人の生活を知り、その人の気持ちを考えてみよう。

＜紹介＞

・昭和 44 年生まれ（平成 28 年４月現在 46 歳）
・20 歳の時に失明。
・大阪の職業生活訓練センターで１年半点字や歩行などを訓練。
・その後、名古屋盲学校へ３年間通い、鍼灸（しんきゅう）マッサージを学ぶ。
・総合福祉センターへ、脳卒中の人のリハビリ指導に２年ほど行く。
（現在も週２回午前中に総合福祉センターでリハビリ指導中）
・平成 14 年、希望ヶ丘の自宅で鍼灸マッサージ治療院を開業。

仕事中の小林さん

(1) 失明した時の小林さん

僕は、20 歳の時に失明しました。入退院の繰り返しで、いやだなあと思ったこともありました。

失明してしまった時には、さすがにショックでしたが、僕は割と気持ちの切り替えが早くできる方なので、「次にどうするか」ということを考えましたね。

それで、「自分一人で生活できるようにしよう」と思って、大阪の訓練センターに行ったのです。

点字が読めるように訓練したり白杖（はくじょう）を使って一人で街の中でも歩けるように訓練したりするのですが、点字も白杖も初めてなのでよく分からないし、いろいろな所に体をぶつけて痛いし、いやだなあと思うことがなかったわけではありません。でも、指導者の人がとてもていねいに教えてくださったことがすごく支えになりました。

(2) 一人暮らしを実行した小林さん

一人暮らしを経験した小林さんのお話

最初に訪ねた不動産屋では部屋を貸してもらえませんでした。でも、２軒目に行った所は理解があって貸してもらえました。盲学校の近所だったからでしょうか。それに、外国人も多く住んでいて、差別とか偏見とかというものがない地域だったのです。

書類を書くことだけは困りましたが、大家さんや家族が代わりに読んでくれるなど、説明を受けることができたので何とかなりました。それ以外では、食べ物屋やスーパーなども近くにあったので大丈夫でした。名古屋だったので電車やバスもたくさんあって移動には困りませんでしたよ。

部屋を貸した大家さんのお話

「全盲」と聞くと、「一人で大丈夫なんだろうか?」という不安があると思いますが、小林さんは盲学校で何でも自分でできるように身につけてきていたので、さほど心配していませんでした。これまでも障がいのある人や外国人などがここを利用されましたが、分からないことや間違ったことがあればそのつど話し合ってきました。ただ、火事になることだけが心配だったので、失礼だとは思ったのですが小林さん専用の消火器を部屋に置かせてもらいました。しかし、小林さんは何でも自分でやれるしっかり者でしたよ。

(3) 余暇を楽しむ小林さん

ボールを転がして打つソフトボールです。ピッチャーとして活躍する小林さん。全盲４人・弱視６人のチーム編成。音が頼りです。汗をかくのは気持ちいいですね。

友達とシンガポールへ行きました。全盲２人・弱視３人・健常者１人です。友達との語らいは楽しいです。僕はどこでも行きますよ。

(4) 小林さんの思い

若いころは、こうでなきゃいけない、と思って、ずいぶんいろいろなことに対して衝突してきましたが、今はいろいろな立場があることを理解し、受け入れるようになりました。みんながそれぞれの立場があることを考え、民間も行政も障がいのある人にもよかった、と思えることが大切だと思います。

1 20歳まで視力があった小林さんの生活は、中途障がい（失明）になったことで、どのように変わったのか考えてみよう。

2 小林さんが「自分の力で生活しよう」と決めて、仕事を持ったり、一人暮らしを実行できたりしたのはなぜか、考えてみよう。

＜本人の視点から＞

＜周りの人との関わりから＞

3 小林さんの生活から感じたことや学んだことをまとめてみよう。

2．聴覚に障がいのある加藤 昭子（かとう あきこ）さん

めあて　自宅で暮らしている障がいのある人の生活を知り、その人の気持ちを考えてみよう。

＜紹介＞

・昭和 19 年生まれ（平成 28 年４月現在 72 歳）
・夫と息子の３人で暮らしている。
・２人の子どもを育てた。
・子どもが保育園に通っているときパート勤めをしていた。
・今は、専業主婦です。

自宅でくつろぐ加藤さん

(1) 加藤さんのお話

平成６年ごろ、広報で福祉センターで行っている『まくらめの教室』のことを知り、通い始め、15 年程続けました。

その後、まなびパークでガラス教室があり、それにも参加しました。とにかくじっとしていることがきらいで、フェルト、モラ（刺しゅう）、絵手紙やパッチワークも習いました。

最近は、近くに住んでいる娘夫婦の家に行って、孫の世話をしているので作品づくりはやめてしまいましたが、手話というより身振り手振りで孫との会話を楽しんでいます。

孫が大きくなったら、また教室に通ったりして、作品づくりを始めたいと思っています。

加藤さんの作品（まくらめ）

(2) 加藤さんの心配事

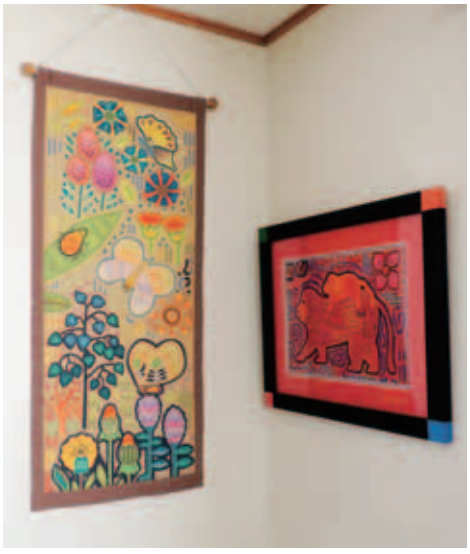
困ったことは特にありませんが、来客があった時に玄関を開けるまで相手の顔が見えないので、強引な勧誘や押し売りが来ると嫌な思いをするし、詐欺にあったりしないか心配です。

近所で火事があっても分からないので、万が一のことを考えると心配になります。

(3) 加藤さんの願い

結婚 44 年目なので、いつになるか分かりませんが、全国ろうあ女性集会のようなところへ、また夫婦で参加したいです。

孫が生まれてからはなかなか行けていませんが、結婚 30 周年記念で北海道へ旅行に行ったので、次は九州へ旅行に行きたいと思っています。



加藤さんの作品（モラ）

1 加藤さんが楽しみにしていることや、うれしく思っていることはどのようなことか、考えてみよう。

2 加藤さんの心配事を解消するために、どのようなことが必要か考えてみよう。

3 加藤さんの生活から感じたことや学んだことをまとめてみよう。

3．肢体に障がいのある伊藤 一浩（いとう かずひろ）さん

めあて　自宅で暮らしている障がいのある人の生活を知り、その人の気持ちを考えてみよう。

＜紹介＞

・昭和 37 年生まれ（平成 28 年４月現在 53 歳）
・小さいころの病気により、上肢・下肢に障がいがある。
・母と二人暮らし。
・小学校１年生から高校３年生まで関養護学校（現関特別支援学校）で学ぶ。（自宅通学）
・岐阜県身体障害者福祉協会に所属している。
・毎週３回、デイサービスに出かけている。
・平成 26 年３月「長い旅～障がいと共に歩んで来た道～」を出版。

絵を描く伊藤さん

(1) 趣味を広げる伊藤さん

機能訓練をしていましたが、初めは手も足も動きませんでした。15 歳までは手の訓練を重点的にしていましたが、それ以降自分が使いやすい足の動きを強化する訓練に変え、足でペンが使えるようになりました。口に筆をくわえて描く星野富弘さんの詩画集に影響を受け、足で絵を描いています。

また、文章や詩を書き、電子メールを通し多くの人に自分の思いを伝えることが私の喜びです。

(2) 伊藤さんの日常

いつも、時間がかかってもいいから、何か自分にできることはないか考えるようにしています。

例えば、手が不自由なので食事は手助けが必要ですが、できるだけ自分で食べるように、食べ物によっては皿に盛ってもらいます。

デイサービスでは、訓練士の方に訓練とケアをしてもらっているので、体調と合わせてこれ以上悪くならないように現状を維持していきたいと思っています。

(3) 伊藤さんの願い

年齢とともに身体的に衰えがきているのと、親の高齢化もあり、将来は障がい者が生活する施設で過ごすようになることを考えると、もっと施設が充実するといいと思います。

また、見た目は良くないかもしれませんが、考えていることは皆さんと変わらないのです。特別な目で見るのではなく、皆さんと同じ意識をもっていることを理解してほしいです。

パソコンで詩をつづる伊藤さん

歩き続けよう

伊藤 一浩

この夜が明けたら
手も、足も、
普通に動いていたりして
布団に入り
言うこともなく
目を閉じる
繰り返していた思春期
どうして僕が―
広がっていた、悔しさと
悲しみの海
「人は、平等であり障がいは個性」
声高に叫ぶ群衆
何も分からない私
戸惑う、二十歳前
前だけを見つめた
希望
人々の微笑み
そして、得たぬくもりと
自身のテリトリー
休まずに、歩き続けよう
足もとから伸びている
私だけの道

「長い旅」のほかに、「翼を求めて」、「忘れない思い出」の２冊を出版されています。また、創作活動の表彰として、「岐阜県芸術文化活動特別奨励」（平成５年）、「東海テレビひまわり賞」（平成 10 年）を受賞されました。

1 時間がかかっても、自分でやろうとする伊藤さんの思いを書いてみよう。

2 趣味を続けることは、伊藤さんにとってどのような役割を果たしているのか考えてみよう。

3 伊藤さんの願いを実現するために、考えてみよう。

＜過ごしやすい施設の視点から＞

＜自分たちにできることから＞

4 伊藤さんの詩を読んで、感じたことを書いてみよう。

4. 家族の支え

めあて　障がいを通した家族の温かい絆、心と命の大切さを知ろう。

ここで、以前の表紙を描いてもらっていた、有賀宣美（ありがのぶみ）さんと母韶子（しょうこ）さんが歩んできた人生について、お話したいと思います。

以前の読本　表紙

昭和 55 年、宣美さんはダウン症という障がいをもって生まれてきました。医者には、心臓･肝臓が肥大し、知的障がい・運動障がいが一生あり、生命も短いと言われました。

宣美さんがまだ幼いころ、韶子さんは何度も話しかけましたが、なかなか理解してくれませんでした。韶子さんは、「この子は障がいがあるから仕方がないんだ。」と理解してもらうことをあきらめていました。しかし、そんな韶子さんに、宣美さんは何度も何度も一生懸命語りかけてきました。その純粋で真っ直ぐな気持ちに、そのときはっとしました。「障がいがあるから」という差別の気持ちが自分の中にあったことに気づいたからです。「のぶさんは生きている。一緒に生きて、幸せになろう。」と心に決めました。

二人で一緒に作った絵本を手にして
お話をする韶子さんと宣美さん

今、二人はとても幸せです。

障がいを越えて、心の中でのぶさんの生命とお話ができました。のぶさんの心には太陽があるのです。

韶子さんは言います。「のぶさんと出会い、命の大切さを見つめることができました。自分が、自分の命がとてもいとおしい。のぶさんから生きる喜びを教えてもらったのです。」

宣美さんのもっているものを最大限に引き出して･･･

1　家族の思いからあなたが感じたことを書いてみよう。

5．地域の中で生きる ～施設を利用する人々～

めあて　施設を利用する障がいのある人の生活を知り、その人が抱える問題について考えてみよう。

(1)「優が丘」を訪ねて

旭ケ丘にあるこの施設では、主に知的に障がいのある人が仕事をしている就労支援と、主に身体に障がいのある人の入浴サービスや余暇活動をする生活介護支援の２つの支援を実施しています。

優が丘には、手先がとても器用な人、記憶することが得意な人、ダンスや絵を描くことが得意な人、おしゃべりが大好きな人、さまざまな人がいらっしゃいます。一人ひとりのもっている力をいっぱい発揮できる場所であり、それと同時に手助けが必要なところを仲間や職員と補い合うことができる施設で、利用者の皆さんも職員も優が丘のことが大好きです。

(2)「優が丘」の様子

【就労支援】
平成 26 年度から本格的に始めた、クッキーの製造・販売。
新しいことにもチャレンジしています。

【生活介護】
月に１回行っている体操教室。
みんなで元気に楽しく体を動かして、運動不足解消！

(3)「優が丘」で障がいのある人を支える職員・正村さんの思い

私が優が丘の利用者の皆さんと初めて会ったとき、まず「なんてあたたかい人たちなんだろう」と思いました。私はそれまで“障がいのある人は、私たちが助けてあげないと”という思いでいましたが、そんな一方的なものではないのだと優が丘の皆さんに教えていただきました。私たち職員は利用者の皆さんから元気と優しさをいっぱいもらって、大変なことも、ちょっと落ち込んでしまうことも、利用者の皆さんと一緒に乗り越えています。

（1）にもあるように、得意なことも苦手なことも一人ひとり違います。作業や活動をとおして“良いところ”“得意なもの”をもっともっと伸ばしていけるよう、利用者の皆さんの気持ちに寄り添い、一人ひとりていねいに優しく関わり、みんなが気持ちよく生活できるような支援を心がけています。また、現在は自分の親と一緒に生活している人がほとんどですが、将来の生活についても考えていかなければなりません。地域で孤立することなく自立した生活ができるよう、調理・外出などの訓練や、地域の人との交流の場をつくり、いつまでも“その人らしい生活”が送れるよう取り組んでいます。

私は今の仕事をしている中で、２つの思いがあります。一つは、“障がい者”と捉えるのではなく、同じ一人の“人”として、お互いのことを大好きになり、尊敬し合うことが大切だということ。もう一つは、少しの支援や手助けがあれば、この人はもっと自分らしく輝けるのではないか、そのためにお手伝いをさせてもらおうという気持ちです。

ぜひ優が丘の皆さんの笑顔に会いに来てください。

1　正村さんの思いからあなたが感じたことを書いてみよう。

(4) 障がいのある人のための住まい

障がいのある人も、生まれ育ったまちの中で、その人らしく生活することができるように支援することが重要です。生活をする上で、もっとも基本となるのが、生活するための住まいです。障がいに応じて適切に管理された住まいを確保することで、障がいのある人は安心して、昼間は働きに出たり、地域のいろいろな活動やイベントに参加したりするなど、その人らしく生活することができます。

多治見市でも、障がいのある人のための住まいを提供するために、**グループホーム**の整備を支援しています。

○障がいのある人のためのグループホーム

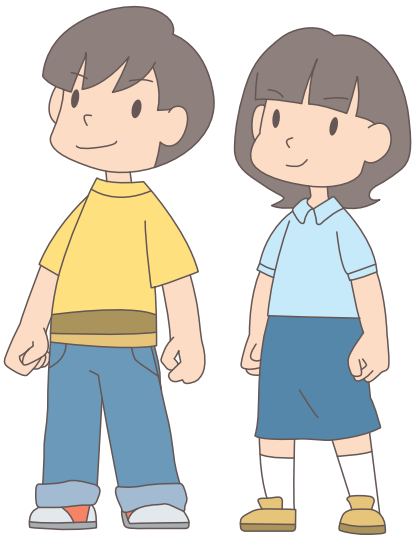
グループホームとは、障がいのある人が地域において、共同して自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、世話人が日常生活上の援助を行う共同住宅のことです。

この学習を振り返って（まとめ）

「第２章　障がいのある人の生活」を学習して

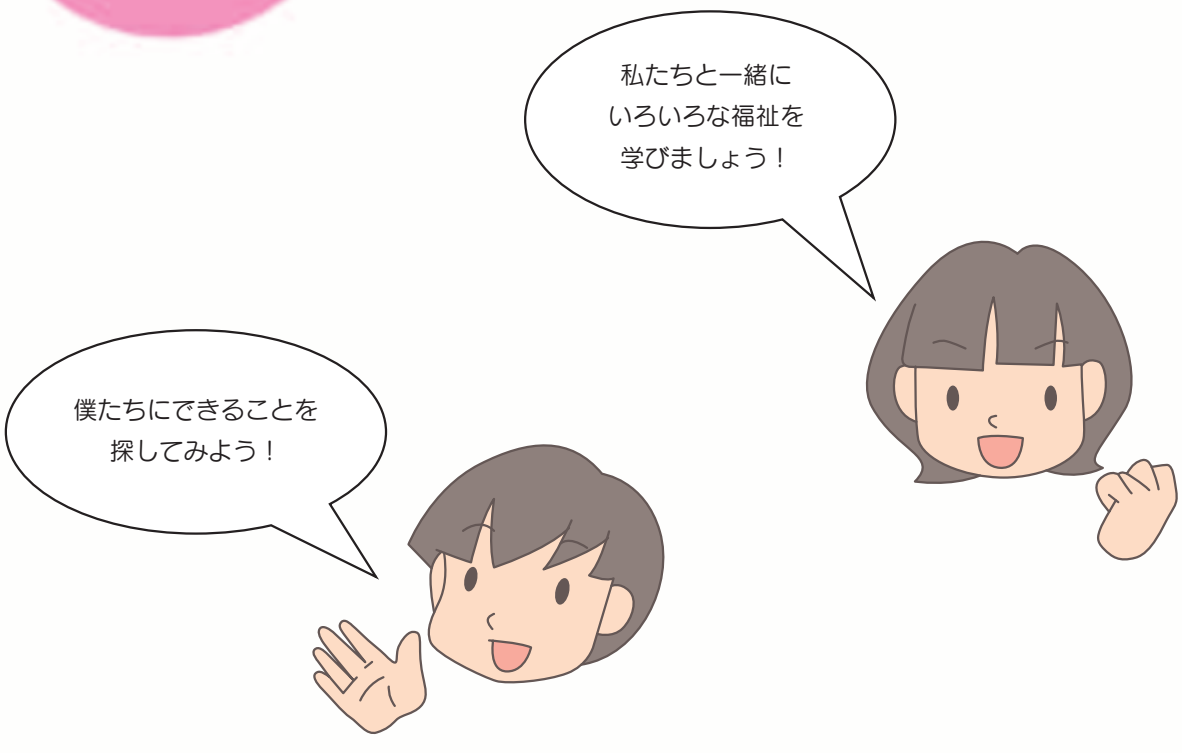
学んだこと

さらに学びたいこと



第3部

もっと学びたい人は



多治見市内の主な福祉施設マップ

障がいのある人のための施設

障害児通園施設

- ▲発達支援センターなかよし
- ▲発達支援センターひまわり

障害者支援施設

- ▲はだし工房共同作業所
- ▲なごみの杜かさはら
- ▲陶技学園
- ▲けやき
- ▲けやきカレッジ
- ▲優が丘
- ▲旭ケ丘ホーム
- ▲ピュアハート姫
- ▲ぶなホーム
- ▲東濃自閉症援助センター「かさはら」

高齢者のための施設

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ■愛の家
- ■ニチイケアセンター太平町
- ■我家我家(がやがや)
- ■シュアー
- ■太陽
- ■グリーンホームかさはら
- ■花トピア姫
- ■ホープ
- ■市之倉ひまわり
- ■さくらの杜
- ■円
- ■住ま居る

特別養護老人ホーム

- ■たじみ陶生苑
- ■かさはら陶生苑
- ■ビアンカ
- ■ベルツリー
- ■エバーグリーン
- ■清涼苑
- ■ジョイフル多治見

養護老人ホーム

- ■多容荘

皆さんのための施設

- ●総合福祉センター
- ●かさはら福祉センター
- ●サンホーム滝呂
- ●ふれあいセンター姫

第1章　福祉の仕事とボランティア ～実践編～

1．福祉の仕事をしている人との出会い

おさむくんとたみ子さんが学校の帰り道に、少し変わった車を見かけました。それは、車いすのままで乗ることができる車でした。職員の人は、やさしく声をかけながら車いすの人を車から降ろしていました。

車いすの人と職員の人が楽しそうに話しているね。職員の人はやさしくて頼りになる感じがするわ。福祉の仕事って大変そうだけど、人に安心とぬくもりを届ける素敵な仕事ね！

車いすの人を車から降ろす職員

総合福祉センター

そうだね！　僕も、福祉の仕事に興味がでてきたよ。
でも、どのような仕事があるか、分からないから、いろいろ調べてみたいなあ。

二人は、実際に仕事の様子を見るため、太平町にある総合福祉センターに行ってみることにしました。そこでは、**社会福祉協議会**(注)の職員の方にお話を伺いました。

ここには、社会福祉協議会の事務局、太平児童センター、デイサービスセンター、老人福祉センター、地域包括支援センター、障害者福祉センター、母子・父子福祉センター、ボランティアセンターなどがあります。

まずは、皆さんも遊んだことがあるかもしれない太平児童センターでお話を聞いてみてはどうでしょうか。

その後で２階、３階も見学してみると、いろいろと福祉の仕事が分かると思いますよ。

社会福祉協議会の森内さん

(注)社会福祉協議会　住民の参加・協力を基礎として、さまざまな地域の福祉課題の解決に取り組み、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の実現を目指している、公益を目的とした民間の組織です。
社会福祉協議会の職員になるには、社会福祉士(※1)や介護福祉士(※2)など、福祉に関する資格をもつことが望まれます。

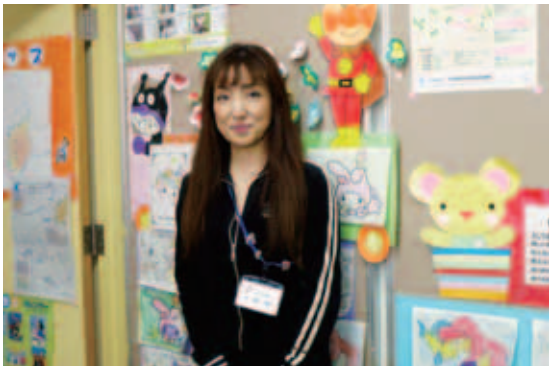
※1社会福祉士……身体または精神に障がいのある人や生活環境上の理由から日常生活を営むのに支障がある人に対し、福祉に関する相談に応じ、助言などの手助けを行う専門職

※2介護福祉士……身体または精神上の障がいがあるために日常生活を営むのに支障がある人に対して、入浴、排泄、食事などを含む介護や、介護に関する指導を行う専門職

2．児童センターで働く水野 千鶴子（みずの ちづこ）さん

めあて　児童館・児童センターはどのような施設か考えてみよう。

おさむくんとたみ子さんは、さっそく児童センターへ向かいました。


児童センター館長の水野さん

水野さんのお話

児童館・児童センターは、児童福祉法で定められている児童福祉施設で、児童遊園とともに児童厚生施設と呼ばれます。児童厚生施設とは、「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、または情操をゆたかにすることを目的とする施設」です。

児童館・児童センターは全ての子どもたちに開かれた遊び場です。教員・幼稚園教諭・保育士の資格のいずれかをもっている児童厚生員が遊びの手助けをしてくれます。

事業としては、0歳から保育園に行く前の子どもたちを対象に親子で遊ぶ乳幼児クラブ、小学生を対象に一輪車クラブ、そしてボランティアに親しんでもらうための子どもスタッフ、中高生を対象に乳幼児とのふれあい交流などを行っています。また、学年に関係なくみんなで遊べるよう考え、工夫して楽しめるようにしています。

その他に、地域の皆さんとの交流事業も行っています。

一輪車クラブによるイベントでの披露

子どもスタッフによる公園清掃

水野さんのお話

多治見市には、児童館6ヶ所・児童センター7ヶ所の計13ヶ所（小学校区に1ヶ所ずつ）があります。どの館も中高生の皆さんまで利用することができますが、特に多治見市総合福祉センター内にある太平児童センターには、中高生スペースという中高生専用の部屋があります。交流・フリー・表現の3つのスペースがあり、読書や音楽・卓球などに加え、調理・飲食もできます。中高生の『居場所』として開設されています。

「児童館・児童センターへまだ遊びに来たことのない人は、ぜひ近くの児童館・児童センターへ遊びに来てください。」

1 児童センターで働く水野さんの仕事についてまとめてみよう。

<対象としている人>

<仕事の内容>

<大切にしていること>

2 水野さんのお話から、あなたが感じたり考えたりしたことを書いてみよう。

3 これまでに児童館･児童センターの利用経験があれば、そのことについて書いてみよう。

<いつ>

<どこで>

<何をしたか>

<感じたこと>

3．高齢者介護に関わる岸本 晃直（きしもと あきなお）さん

めあて　福祉に関わる人たちの喜びはどのようなところにあるのか、考えてみよう。

おさむくんとたみ子さんは、続いてデイサービスセンターを訪ねてみました。

利用者と体操をする岸本さん

利用者の方と話をする岸本さん

介護福祉士　岸本さんのお話

デイサービスセンターは、在宅生活を送るうえで何らかの支障がある高齢者の方が利用します。私たちはその方の食事や入浴などのお手伝いをするとともに、１日を楽しく過ごしていただけるように、レクリエーションや季節に合わせた行事などを考えることも大切な仕事としています。また、筋力低下による転倒や骨折を防ぐために体操やウォーキングの時間や脳の老化予防のための計算問題や漢字の読み書きなど脳トレの時間を設けて実施しています。

岸本さんのお話

介護の仕事をしていてやりがいを感じるのは、利用者の方が１日を笑顔で楽しく過ごされ、「ありがとう」「また今度もよろしくね」「デイサービスセンターに来て良かった」と心から思っていただけることです。利用者の方が、ここへ来て生き生きとした姿を見ると、私自身も「頑張ろう」という気持ちになり、元気が出てきます。

でも、人相手の仕事なのでつらいこともあります。昨日まで元気にお話していらした方の具合が急に悪くなったり、デイサービスセンターに来られなくなったりすることも多いのです。ですから、利用された日をかけがえの無い１日だと思い、その１日を楽しく過ごしていただくことの大切さを感じています。

岸本さんから私たちへのアドバイス

高齢者の中には、外出が難しく、人との触れ合いが途絶えてしまった方が多くみえます。皆さんと同じように人と交流をもつことは、高齢者の方にとってもよい気分転換にもなります。身近にそういった高齢者の方がみえたら、一緒にお話したりして触れ合ったりすることによって笑顔で応え、喜ばれると思います。

声をかけることは勇気のいることだと思いますが、一緒にお話などをして交流することによって皆さんにとっても学校とはまた違ったことを学べる良い機会となるのではないでしょうか。

1 デイサービスセンターで働く岸本さんの仕事についてまとめてみよう。

<対象としている人>

<仕事の内容>

<もっている資格>

<大切にしていること>

2 岸本さんはこの仕事のどのようなところに喜びを感じているのか考えてみよう。

3 岸本さんのお話から、あなたが感じたり考えたりしたことを書いてみよう。

4．高齢者の生きがいづくりに関わる伊藤 志乃（いとう しの）さん

めあて　福祉に関わる人たちはどのようなことを大切にしているのか、考えてみよう。

おさむくんとたみ子さんは、老人福祉センターを訪ねてみました。

伊藤さんは、なぜ、福祉の仕事を選んだのかしら？
どのような仕事をしているのかしら？

高齢者の方に体操の指導をする伊藤さん

伊藤さんのお話

人と関わったり、接したりすることが好きで、人の役に立つ仕事がしたいと思い、ライフスタイルが変わっても仕事が続けられるように介護福祉士の資格を取得しました。

現在は老人福祉センターで、多治見市内に住んでいる 60 歳以上の方を対象に、パソコンや習字、体操やヨガといったさまざまな教室の開催、寄せ植えや花餅作り、お茶会など季節に合わせた行事の実施、ビリヤードやカラオケが設置されている娯楽室の運営などを担当しています。高齢者の皆さんが、楽しく過ごすことのできる居場所づくりを目指しています。

バランスボール教室の様子

伊藤さんのお話

私は、この老人福祉センターを利用される皆さんにとって楽しく居心地の良い場所にするために、明るく笑顔で接することを心がけています。

高齢者の皆さんがいつまでもいきいきと健やかに過ごすために、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりの場として、また、外出するきっかけや自分探しのヒントとなれるような教室や行事を企画していかなければならないと思っています。

1　伊藤さんのお話から、あなたが感じたり考えたりしたことを書いてみよう。

5．笑顔があふれるボランティア活動

めあて　ボランティア活動について知ろう。

おさむくんとたみ子さんは、ボランティアセンターを訪ねてみました。

ボランティアセンターはどのようなところかな？

ボランティアルーム

ボランティアセンターとは

ボランティアセンターでは、ボランティアに関するいろいろな事業を行っています。ここで、ボランティア活動に関する相談を受け付け、ボランティアコーディネーターは、活動を「したい人」と「してほしい人」とを結び付けます。このほかにも、活動に必要な知識や技術を習得する講座を開催したり、自主的に活動できるための支援や情報を提供したりしています。

また、総合福祉センターの４階には、ボランティア活動に興味のある人が、自由に使えるボランティアルームがあります。室内には、パソコンや図書、掲示板などがあり、いろいろな情報を集めることができます。

ボランティアにはどのような活動があるのかしら？
どのような人が参加しているのかしら？

ボランティア活動と一言でいっても、高齢者や児童、障がい者を支援する活動などがあり、活動の場所も、地域や福祉施設、学校、自宅などいろいろあります。このほかに美化活動やリサイクル活動、環境、国際交流、災害に関する活動など、活動分野も幅広くあります。

仕事をしている人や主婦、学生など、いろいろな人が個人、または団体でボランティア活動に参加しています。

掲示板で情報確認

ボランティア活動をしている団体数 102 団体／個人登録を含む人数 3,376 人　平成28年3月末現在

私も、何か
ボランティア活動を
してみたくなったわ!!

よし、僕もさっそく
今度の休みに
挑戦してみよう!!

6．君たちも参加できるボランティア活動

めあて　私たちはどのようなボランティア活動ができるのか、考えてみよう。

ボランティア活動は、特別な人が行う活動ではありません。普段の生活の中で、人を助けたり自分が助けられたりすることがよくありますね。そんな気持ちで、できることを探してみてください。日々の暮らしの中で、できることがきっと見つかるはずです。

(1) 学校でできる活動

地域の高齢者を学校に招いて楽しく交流したり、アルミ缶を集めて福祉施設に車いすを寄付したり、赤い羽根共同募金などの募金活動を行ったりすることができます。他の学校ではどんな活動をしているのか交流してみましょう。

募金活動

(2) 自分ひとりや仲間とできる活動

自分ひとりや少人数の仲間では、使用済みの古切手や書き損じはがき、ベルマーク、アルミ缶などを集めたり、地域に一人で暮らしている人の話し相手となったりするなどの活動ができます。

社会福祉協議会では、使用済みの古切手や書き損じはがき、ベルマークなどを回収しています。

地域の高齢者と集会所で交流

(3) 理解と関心を深めよう

福祉について理解と関心を深めることも大切です。福祉に関連する本を読んでみたり、各種講習会に参加したりするなど積極的に福祉に関する知識や情報を得るなどして、理解を深めましょう。社会福祉協議会には、「夏のボランティア体験」をはじめ、中学生の皆さんでも参加できるボランティア活動がありますので、参加してみましょう。

ボランティア体験の様子

夏のボランティア体験　［申込先：社会福祉協議会 電話 25-1134］

- **高齢者福祉コース**
  老人福祉施設などで食事介助や話し相手などを体験します。
- **障がい者福祉コース**
  障がい児(者)　施設での体験や手話･要約筆記･点字･音訳を体験します。
- **児童福祉コース**
  児童館・保育園などで幼児や児童の遊び相手や行事のお手伝いをします。

音訳

手話

要約筆記

1　自分にもできそうなボランティア活動を考えてみよう。

7．福祉の分野

福祉には、これまで学習してきた高齢者、障がいのある人、子どもの福祉だけではなく、いろいろな分野があります。

(1) 児童の福祉

子育て・子育ち支援(注1)に関することが行われています。

保育園・幼稚園、児童館・児童センター、学童保育所、支援が必要な児童への援助や医療費の助成に関することなどです。

(2) ひとり親の福祉

総合福祉センターの中にある母子・父子福祉センターでは、母子家庭や父子家庭への支援が行われています。相談員が相談を受けたり、その人に合った援助を行ったりしています。

(3) 高齢者の福祉

高齢者の支援に関することが行われています。

日常生活の援助、生活用具の貸出し、入浴サービス、食事サービス、老人施設の利用、住宅改修費用の助成、医療費の助成などがあります。また、生きがいづくり活動も行われています。

(4) 障がい者の福祉

心身に障がいのある人の支援に関することが行われています。

日常生活の援助、生活用具の給付、補そう具費の支給、障がい者施設の利用、税金の軽減、住宅改修費用の助成、自動車改造費用の助成、手話通訳者および要約筆記者の派遣、医療費の助成などがあります。

(5) 生活の福祉（生活の援護）

生活保護という、憲法に定められた「最低限度の生活を保障する」ための制度に関することなど、主に経済的な援助に関することが行われています。

(6) 地域の福祉

各地域で、**民生委員・児童委員**(注2)、**主任児童委員**(注3)などが福祉を支えています。近隣の困っている人への援助が行われています。

また、社会福祉協議会では、ボランティアや**福祉委員**(注4)など、市民参加による福祉活動の推進に関することが行われています。地域での交流やボランティアセンターの活動もその一つです。

(注1)子育て・子育ち支援	子育てをする家庭を支援するだけではなく、子どもたち自身も支援していくことです。
(注2)民生委員・児童委員	社会奉仕の精神をもって、高齢者、障がいのある人、子どもなどの援助を必要としている人の相談に応じ、情報提供及び援助をする地域の奉仕者。民生委員法に基づく民生委員と、児童福祉法に基づく児童委員を兼務している。
(注3)主任児童委員	児童福祉に関する事項を専門的に担当し、多治見市では小学校区に2名ずつ配置されている。
(注4)福祉委員	地域の推薦により、原則として町内会単位に設置し、多治見市社会福祉協議会の会長が委嘱する地域のボランティアです。

1 多治見市役所で行われている福祉の仕事を、市役所のホームページで調べてみよう。

http://www.city.tajimi.lg.jp

第２章　福祉の仕事と施設　～資料編～

１．福祉の仕事と資格

福祉の仕事に関係する主な仕事と主な職場、仕事に就くために必要な資格は次のようなものがあります。（職場の欄には例をのせていますが、これ以外にも、高齢者、障がいのある人、子どもの施設などいろいろな職場があります。）

	仕事内容	職　場	資　格
職業指導員 就労支援員	障がいのある人が利用する施設で、作業のやり方や心構えなどを支援します。また、他のスタッフとともに日常生活を送るうえでの生活援助を行うこともあります。	・障害者支援施設	取得が望ましい資格 **・社会福祉主事 任用資格**
生活相談員 生活支援員	高齢者や障がいのある人、また環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある人の福祉に関する相談や援助を行います。	・特別養護老人ホーム ・障害者支援施設 ・デイサービスセンター	取得が望ましい資格 **・社会福祉士** **・社会福祉主事 任用資格**
介護職員	高齢者や障がいのある人など、介護を必要とする人が利用する施設で、食事、入浴、排せつ、更衣などの身の回りのお世話をすることが中心です。	・特別養護老人ホーム ・老人保健施設 ・障害者支援施設 ・デイサービスセンター	取得が望ましい資格 **・介護福祉士** **・介護職員初任者研修 以上修了** （旧・訪問介護員養成研修２級課程以上修了）
訪問介護員 （ホームヘルパー）	介護を必要とする高齢者や障がいのある人が、自宅で食事や入浴などを一人ですることが難しいとき、家庭を訪問してお手伝いをします。	・訪問介護サービス事業所	必要な資格 **・介護福祉士** **・介護職員初任者研修 以上修了** （旧・訪問介護員養成研修２級課程以上修了）
保育士	保育所では、親が働いている時間、子どもを預かり、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、子どもの社会性を養います。	・保育所 ・児童福祉施設	必要な資格 **・保育士**
看護師・准看護師	医師の指示に基づいて治療のサポートをしたり、利用者ができる限り質の高い生活ができるように支援したりします。利用者の状態を把握し、他職種と連携を図り適切な対応を取るのも重要な役割です。	・病院 ・保健センター ・特別養護老人ホーム ・デイサービスセンター	必要な資格 **・看護師、准看護師**

	仕事内容	職　場	資　格
管理栄養士 栄養士	栄養価計算に基づく献立作成や祭事などのイベント食の作成、食事制限がある人の食事の管理など、栄養バランスと演出効果を取り入れながら、栄養管理、献立作成を行います。	・特別養護老人ホーム ・小・中学校	必要な資格 **・管理栄養士** **・栄養士**
精神保健福祉士	精神に障がいのある人の社会復帰のための相談、日常生活への適応のための訓練を行うとともに、社会復帰に向けての援助などを行います。	・病院 ・精神障害者社会復帰施設	必要な資格 **・精神保健福祉士**
臨床心理士	臨床的な心理学の技法を用いて、心の悩み・不安や問題行動を軽減したり、問題解決を図ったりするなどの援助を行います。	・病院 ・児童相談所	必要な資格 **・臨床心理士**
社会福祉協議会職員	社会福祉協議会は、県・各市町村に設置されている民間団体で、地域福祉を推進する中核となる団体です。 職員は、地域福祉活動を円滑に進めるための地域の組織化や、生活や福祉に関する地域の相談窓口になったり、福祉活動の地域の相談窓口になったり、福祉活動の地域のネットワークづくりなど、さまざまな活動を行っています。	・社会福祉協議会	取得が望ましい資格 **・社会福祉士** **・社会福祉主事任用資格**
介護支援専門員（ケアマネジャー）	寝たきりや認知症などで要介護の状態にある人の家庭を訪問し、主に介護保険に関する相談、手続き、紹介、調整などを行います。	・特別養護老人ホーム ・居宅介護支援事業所	必要な資格 **・介護支援専門員**
理学療法士	障がいのある人の身体運動機能や身体能力が回復できるように援助します。	・病院 ・特別養護老人ホーム ・リハビリテーションセンター	必要な資格 **・理学療法士**
作業療法士	身体機能に障がいのある人に、さまざまな活動を通して能力の維持・改善の援助をします。	・病院 ・特別養護老人ホーム ・リハビリテーションセンター	必要な資格 **・作業療法士**
言語聴覚士	言語障がいや難聴、失語、言語発達遅延などの機能回復を図ります。	・病院 ・介護老人保健施設 ・聴覚言語障害者更生施設	必要な資格 **・言語聴覚士**
視能訓練士	見る機能（視能）に障がいのある人に、機能回復のための視機能検査と視能矯正訓練を行います。	・病院 ・眼科医院	必要な資格 **・視能訓練士**

	仕事内容	職　場	資　格
義肢装具士	障がいのある人の生活の質の向上を支える専門的技術者で、障がいやニーズに合わせた義手、義足、体幹装具などの義肢装具を作成します。	・リハビリテーションセンター ・義肢製作所	必要な資格 **・義肢装具士**
手話通訳士	聴覚に障がいのある人のコミュニケーションを援助します。	・病院 ・社会福祉事務所	必要な資格 **・手話通訳士**
児童指導員	児童福祉施設で生活する子どもたちが健全な発達を遂げられるよう、家庭での親に代わって、生活全般の世話や指導を行います。	・児童養護施設 ・障がい児施設	取得が望ましい資格 **・保育士** **・児童指導員任用資格**

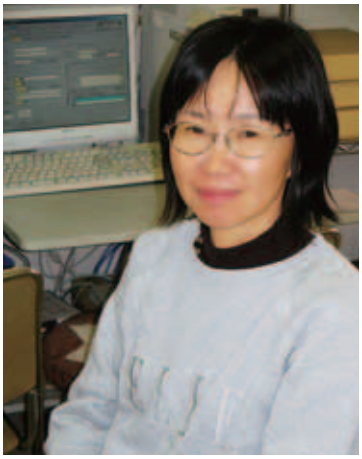
資料）岐阜県福祉人材総合対策センター「福祉の仕事・資格・学校　ガイドブック 2015」

たじみヘルパーステーションで働く今井さんのお話

私の勤めている職場は、常勤職員が 12 名、パート職員が 45 名のヘルパー事業所です。職員は、介護福祉士という国家資格と介護職員初任者研修（ヘルパー 2 級）をもって働いており、“介護のプロ”として仕事をしています。

ホームヘルパーは 1 日 3 ～ 5 件の高齢者や障がい者のお宅を訪問し、入浴介助、洗髪、おむつ交換などの身体介護と掃除、調理、買い物などの生活援助を行っています。安心して任せることのできるヘルパーを望まれていますので利用者との信頼関係を大切にしています。その日その日の体調や希望に合わせた支援は難しいところもありますが、一人で悩まないように職員間で応援、相談できるグループ体制で仕事をしています。

訪問するとき持参するもの
- エプロン
- 入浴用エプロン
- 手袋
- 消毒薬（3種類）
- クリーム
- 腰痛ベルト
- 予定表など



ヘルパーステーションで働く
今井さん

2. 福祉関連施設

(1) 多治見市内の福祉施設

平成 28 年4月現在

	種　別	施設名	所在地	電話番号
高齢者のための施設	介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム）	たじみ陶生苑	小名田町小滝 5-411	25-6997
		かさはら陶生苑	笠原町 2854-1	45-2181
		ベルツリー	脇之島町 3-16-1	22-4434
		ビアンカ	上山町 1-97-2	25-0780
		エバーグリーン	小名田町西ヶ洞 1-325	21-5135
		ジョイフル多治見	音羽町 1-35-1	21-1711
		清涼苑	旭ヶ丘 7-17-2	29-1185
	地域密着型 介護老人福祉施設	小規模特別養護老人ホーム エバーグリーン	小名田町西ヶ洞 1-325	21-5135
		特別養護老人ホーム　浩養園	京町 6-13-2	26-8636
	介護老人保健施設 （老人保健施設）	メモリアル光陽	大畑町大洞 39-1	25-8343
		アルマ・マータ	小名田町西ヶ洞 71-1	24-6787
		なでしこ	旭ヶ丘 7-12-1	27-1165
	認知症対応型 共同生活介護 （グループホーム）	愛の家グループホーム　多治見	旭ヶ丘 7-9-12	20-2185
		グリーンホームかさはら	笠原町 4406-1	43-5888
		グループホーム 市之倉ひまわり	市之倉町 13-83-353	28-3113
		グループホーム 円	小名田町 3-89	21-0501
		グループホーム 我家我家 壱番館・弐番館	小泉町 4-228	27-8333
		グループホーム さくらの杜	上町 4-46-7	26-9899
		グループホーム シュアー	東栄町 1-35-1	24-8403
		グループホーム 住ま居る	笠原町 2455-42	45-2077
		グループホーム 花トピア姫	大針町 672-2	26-7248
		グループホーム ホープ	希望ヶ丘 2-1-2	25-3936
		多治見グループホーム 太陽	幸町 4-41-5	20-0012
		ニチイケアセンター太平町	太平町 1-70-1	21-6530
	養護老人ホーム	多容荘	旭ヶ丘 7-15-1	27-6778
	老人福祉センター	多治見市老人福祉センター	太平町 2-39-1 （総合福祉センター内）	25-1131
		多治見市滝呂老人福祉センター	滝呂町 10-87-4 （サンホーム滝呂内）	24-5560
		多治見市南姫老人福祉センター	大針町字台 80-2 （ふれあいセンター姫内）	20-2020
高齢者のための相談機関	地域包括支援センター	太平地域包括支援センター	太平町 2-39-1 （総合福祉センター内）	25-1135
		滝呂地域包括支援センター	滝呂町 10-87-4 （サンホーム滝呂内）	24-5562
		南姫地域包括支援センター	大針町字台 80-2 （ふれあいセンター姫内）	20-2021
		笠原地域包括支援センター	笠原町 2900-6 （かさはら福祉センター内）	45-0007
		精華地域包括支援センター	十九田町 1-10	25-2511
	高齢者支援センター	昭和高齢者支援センター	大畑町大洞 39-1 （メモリアル光陽内）	25-8343
		北栄高齢者支援センター	旭ヶ丘 7-15-1 （養護老人ホーム多容荘内）	27-2211

	種　別	施設名	所在地	電話番号
障がいのある人のための施設	障害者支援施設	第一陶技学園	姫町 2-2	29-2039
		第二陶技学園	姫町 2-2	29-2411
		陶技学園通勤寮	姫町 2-2	27-8405
		ぶなホーム	平和町 6-28	25-6121
		旭ヶ丘ホーム	旭ヶ丘 7-16-55	27-8022
		社会就労センター　けやき	平和町 6-364	22-1011
		けやき	平和町 6-364	22-1011
		第２けやき	平和町 5-28	26-8600
		第３けやき	平和町 7-23	26-9902
		けやきカレッジ	根本町 3-90	26-8646
		優が丘	旭ヶ丘 7-16-71	29-1424
		はだし工房共同作業所	笠原町 1647-788	44-3401
		なごみの杜かさはら	笠原町 2215-1	44-1717
		多治見市障害者福祉センター	太平町 2-39-1 （総合福祉センター内）	25-1131
		ピュアハート姫	大藪町 849-1	27-3744
		東濃自閉症援助センター「かさはら」	笠原町 1661-5	44-2511
子どものための施設	母子・父子福祉センター	多治見市母子・父子福祉センター	太平町 2-39-1 （総合福祉センター内）	25-1131
	児童館・児童センター	坂上児童館	坂上町 7-30	22-6702
		中央児童館	御幸町 2-95	22-8903
		大原児童館	小泉町 3-50	27-2502
		本土児童館	小田町 1-20	23-0333
		共栄児童館	高田町 6-40	23-9230
		笠原児童館	笠原町 2837-2	44-2285
		太平児童センター	太平町 2-39-1 （総合福祉センター内）	25-1131
		旭ヶ丘児童センター	旭ヶ丘 7-16-62	27-9783
		根本児童センター	根本町 3-55-1 （根本交流センター内）	27-5500
		市之倉児童センター	市之倉町 7-124	25-3730
		脇之島児童センター	脇之島町 6-31-5	25-2151
		滝呂児童センター	滝呂町 10-87-4 （サンホーム滝呂内）	24-5560
		南姫児童センター	大針町 80-2 （ふれあいセンター姫内）	20-2020
	心身障害児通園施設	発達支援センターなかよし	元町 3-28	25-0783
		発達支援センターひまわり	笠原町 1194-1	43-3400

（2）多治見市内の福祉・保健関係機関、団体

名　称	所在地	電話番号	設置主体
多治見市社会福祉事務所	音羽町 1-71-1（市役所駅北庁舎福祉課）	22-1111	市
多治見市保健センター	音羽町 1-71-1（市役所駅北庁舎）	22-1111	市
多治見市総合福祉センター	太平町 2-39-1	25-1131	市
かさはら福祉センター	笠原町 2900-6	43-4158	市
サンホーム滝呂	滝呂町 10-87-4	24-5560	市
ふれあいセンター姫	大針町 80-2	20-2020	市
多治見市社会福祉協議会	太平町 2-39-1（総合福祉センター内）	25-1131	社会福祉法人
東濃子ども相談センター	上野町 5-68-1（東濃西部総合庁舎内）	23-1111	県
東濃保健所	上野町 5-68-1（東濃西部総合庁舎内）	23-1111	県

障がい者マーク一覧表

マーク	名称	マークの意味	関連団体
	身体障がい者標識 （障がい者マーク）	肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。 ほかの自動車の運転者は、このマークを表示した車に対する幅寄せや割り込みが禁止されています。	・各警察署交通課 ・県交通安全協会
	聴覚障がい者標識 （聴覚障がい者マーク）	法令で定める程度の聴覚障がい者であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。 ほかの自動車の運転者は、このマークを表示した車に対する幅寄せや割り込みが禁止されています。	・各警察署交通課 ・県交通安全協会
	障害者のための 国際シンボルマーク	障がいのある人が利用できる建物、施設であることを示す世界共通のシンボルマークです。マークの使用については国際リハビリテーション協会の「使用指針」により定められています。 このマークは全ての障がい者を対象としたものです。	(公益)日本障害者リハビリテーション協会
	盲人のための 国際シンボルマーク	視覚障がいを示す世界共通のシンボルマークです。視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられています。信号、音声案内装置、国際点字郵便物、書籍に使用されています。	社会福祉法人日本盲人福祉委員会
	耳マーク	このマークは「耳が不自由です」という自己表示が必要ということで作成されたものです。 このマークを付けた方と話すときは、「はっきり口元を見せて話す」「筆談する」などご協力をお願いします。	(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
	ほじょ犬マーク	身体障がい者補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）同伴啓発のためのマークです。 平成 14 年に「身体障害者補助犬法」が施行され、現在では公共の施設や交通機関、デパートなど、民間施設でも身体障がい者補助犬が同伴できるようになりました。	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室
	オストメイトマーク	人工肛門・人工膀胱の方たち（オストメイト）のための設備があることを表しています。 オストメイト対応のトイレの入口・案内誘導プレートに表示されています。	(公社)日本オストミー協会
	ハート・プラスマーク	このマークは身体内部に障がいがある人を表しています。内部障がいの方は外見から分かりにくいため、さまざまな誤解を受けることがあります。 このマークを目にしたら、身体内部に障がいがある方がいることをご理解いただき、ご協力をお願いします。	特定非営利活動法人 ハート・プラスの会
	ヘルプマーク	内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見からは分からない方が、周囲の方に援助や配慮を必要としていることを知らせるマークです。 ヘルプマークを身に着けた方が困っているようであれば、声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。	東京都福祉保健局
	白杖ＳＯＳシグナル 普及啓発 シンボルマーク	視覚に障がいのある方が、外出先で困ったことがあった場合などに、白杖を頭上 50cm 程度に掲げて周囲の方に助けを求める「白杖 SOS シグナル」の普及啓発を図るためのシンボルマークです。	・岐阜市 ・(一社)岐阜県視覚障害者福祉協会 ・社会福祉法人日本盲人会連合
	多治見市の バリアフリーマーク	正式には、「バリアフリー適合証」と言い、市域全体におけるバリアフリー意識の高揚と、高齢者、障がいのある人や小さな子どもを連れた人たちへのバリアフリー情報の提供を目的とし、基準に該当する店舗や施設へ交付しています。	多治見市福祉課

多治見市福祉教育読本編集委員

役　職	所属・職名	氏　名
委員長	多治見市教育研究所	河本　英樹
副委員長	社会福祉法人　美濃陶生苑	河尻　永氏
編集委員	岐阜県身体障害者福祉協会多治見支部	宮島美代子
	社会福祉法人　多治見市社会福祉協議会	森内佐和子
	多治見市立陶都中学校　教諭	勝野　和広
	多治見市立北陵中学校　教諭	池戸　佳香
	多治見市立養正小学校　教諭	前川　栄一
	多治見市立根本小学校　教諭	渡辺　雅司
	多治見市保健センター	水野　祥子
	多治見市子ども支援課	市原　浩代

（平成 28 年3月末現在）

取材協力

有賀韶子
伊藤一浩
加藤昭子
谷口幸平
笠原ビリヤード倶楽部
岐阜県立岐阜盲学校
グループホーム　シュアー
社会福祉法人多治見市社会福祉協議会
たじみヘルパーステーション
日本自閉症協会岐阜県支部
老人保健施設　アルマ・マータ
有賀宣美
奥村幸子
小林康史
西川　壽
カム・オン有限会社
岐阜県立岐阜聾学校
社会福祉法人中部盲導犬協会
社会福祉法人みらい
特別養護老人ホーム　かさはら陶生苑
優が丘

（順不同・敬称略）

参考文献

総務省統計局「日本の統計」
福祉の仕事・資格・学校ガイドブック 2015 ／岐阜県社会福祉協議会　岐阜県福祉人材総合対策センター
多治見市高齢者保健福祉計画 2015
知ってほしい！わかってほしい！知的障がい
サポートハンドブック～障害のある人への窓口でのサポート～
／和歌山県　福祉保健部　福祉保健政策局　障害福祉課

平成28年３月　改訂版発行

編集発行　**多治見市福祉部福祉課**

多治見市音羽町１－71－１

TEL　0572－23－5812

作成費用　1,077,300円(税込)

作成部数　2,500部

※この印刷物は、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。
※リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可
※この印刷物は、Ａランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。

1	年	組	番	班
2	年	組	番	班
3	年	組	番	班
名　前				

環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用しています